

子どもたちのための 神さまの心を知る本

ケビン J マリンズ ケビン



子どもたちのための
神さまの心を知る本

ケビン j .マリンズ

印刷元



2021 年 2 月

Contents 目次

はじめに一保護者の皆さまへ**Error! Bookmark not defined.**

イエスさまならどうするかな？	5
いやな人にもやさしくしよう	8
神さまは愛	21
大洪水と神さまの心.....	34
エジプトの災いと神さまの心	72
毒へびと神さまの心.....	86
ことばさがしパズル.....	94



ケビン・J・マリンス は、イエスの人格において示された聖書の真理を深く愛する人です。彼は、単に一般の信徒ですが、子供たちを心から愛し、彼らが健やかに成長することを願っています。彼の最大の関心は、神の御品性を擁護し、敵の偽りを取り除くことにあります。

ケビンはアメリカ・メイン州に在住し、三人の素晴らしい子供に恵まれています。成人した二人アイザックとヘイリーそして、6 歳のエリアナです。

はじめに一保護者の皆さまへ

多くの人が神さまのご性質について混乱してしまう理由は、聖書をどのように読んで正しく学ぶべきかという理解にあるのだと思います。聖書は文字どおりに読むべきでしょうか。その通りです。しかし同時に、私たちは聖書**全体**を通して読む必要があります。ある一つの聖句がある言い方をしている、同じテーマについて別の箇所では少し違う表現がされているかもしれません。聖書の中で同じテーマについて語られている箇所を集め、比べながら読むことで、私たちはそのテーマについての真理をより確かに理解することができます。

子供達に、聖書の読み方や学び方を正しく伝えることは、とても大切です。多くの子どもたちは、成長の中で神様についてさまざまな混合したメッセージを読んだり聞いたりしながら育ちます。そして成長すると、聖書の中に、まるで神様が言うことを聞かない人々を何十億と滅ぼす復讐的な支配者であるかのように見える物語を読み、そうした誤解を強めてしまうことがあります。このような理解は、時に子供達を無神論へと向かわせてしまうことさえあります。

この問題について、いま世界中で大きな動きが起こっています。イエスさまが再び来られる前に、これを明らかにする必要があります。多くの人々が、神様の本当のご性質をより正しく理解し始めています。その結果、この素晴らしい真理を子供達にもわかりやすく伝えて欲しいという願いが強く寄せられました。このような理由から、この書籍が作られました。これを読む子様達だけでなく、読み聞かせをされる保護者の皆さまご自身にも祝福がありますことを心から祈っております。もし、これらのテーマについてさらに深く理解したいと思われましたら、ぜひ私達のウェブサイトをご覧ください。

fatheroflove.info

この小さな一冊が、お子様の心に、天の父への深く揺るがない愛を育むための大きな助けとなることを心から祈っています。天の父はお子様一人一人を深く大切に思い、偉大な目的をもって創造してくださいました。

ケビン J マリンズ

イエスさまならどうするかな？

イエスさまのことを^{おも}思うとき、
どんな^{ことば}言葉がうかびますか。や
さしい？^{あい}愛にあふれている？お
だやか？ゆるしてくれる？それ
とも… だれかを^{たいせつ}大切にする、
^{おも}思いやりのある^{ひと}人？



じゃあ、こんどは^{てん}天の^{ちち}父の^{かみ}神さ
まのことを^{あらわ}表す^{ことば}言葉を^{かんが}考えてみましょう。どんな
^{ことば}言葉が^{おも}思いうかびますか。イエスさまのときと^{ちが}違う？
それとも^{おな}同じ？^{かみ}神さまは、イエスさまと^{ちが}違うことを
すると^{おも}思いますか？

ある^ひ日、イエスさまの^{とも}お友だちのピリポがイエスさま
にこう言いました。「父の^{ちち}神さまが^{かみ}どんなことをして
いるのか、^み見せてください。」すると^{い え す}イエスさまは、
こう^{こた}答えました。

ピリポ、こんなに長い間^{なが} いっしょにいたのに、
まだ私^{わたし}のことが分^わからないのか。私^{わたし}を見た人^{ひと}
は、父^{ちち}なる神^{かみ}さまを見たのだ。どうして「父^{ちち}
なる神^{かみ}さまを見^みせてください」と言うのか。～ヨ
ハネ 14:9

これは、イエスさまが教^{おし}えてくれた とても大切^{たいせつ}なこと
です。天^{てん}の父^{ちち}は、イエスさまと違^{ちが}うことをしません。
実^{じつ}は、イエスさまがこの世^せに來^きたのは、父^{ちち}の神^{かみ}さま
がどんなことをしているのかを私^{わたし}たちに見^みせるため
だったのです。ある夜^{よる}、イエスさまがお祈^{いの}りしていた
とき、イエスさまは父^{ちち}の神^{かみ}さまに こうお話し^{はな}しました。

私^{わたし}は、この地上^{ちじょう}で あなたの栄光^{えいこう}を表^{あらわ}しまし
た。あなたが私^{わたし}にまかせた仕^し事^{ごと}を、すべてや
りとげました。～ヨハネ 17:4

イエスさまが、父^{ちち}の神^{かみ}さまの「栄光^{えいこう}を表^{あらわ}しました」
と言^いったのは、父^{ちち}の神^{かみ}さまがどんなことをするかを、
みんなに見^みせたという意味^{い み}です。イエスさまが話^{はな}した

こと、したことは、すべてが父^{ちち}の神^{かみ}さまの「栄光^{えいこう}をあらわ表した」のです。

この 4 つのアルファベット“WWJD”を見たことがありますか？この 4 つの文字^{もじ}には、ある質問^{しつもん}がかくれています。その質問^{しつもん}がわかりますか？それは、“**What Would Jesus Do?**” 「イエスさまはどうする？」なのです。



大事なことを決めないといけな
いとき、多く^{おお}の人^{ひと}がこの質問^{しつもん}を
します。たとえば、だれかがや
さしくしてくれなかったら、ど
うすればいいんだろうって思^{おも}う
でしょう。そんなときに、多く^{おお}
の人^{ひと}がこう考^{かんが}えます。イエスさ
まだったらどうするかな、と。

だれかがイエスさまにやさしくしてくれなかったら、
イエスさまはどうしたでしょう。その人^{ひと}をきずつけた

いとおもったでしょうか？ひどいことばをいにかえ返したでしょうか？けんかをしたいとおもったでしょうか。実は、イエスさまにやさしくしないひとがいたことは、なんかいもありました。じゃあ、わたしたちはいくつかのお話はなしてみることになしましょう。そうすれば、イエスさまだったらどうするかな？というしつもんへのこたえが、よくわかるようになるでしょう。

いやなひとにもやさしくしよう

イエスさまが教えてくれることをき気に入らないしゅうきょうのリーダーたちが、たくさんいました。ひとびとがかみさまのこことかみさまのこころについてしりたいとき、イエスさまのところへいくようになったので、そのリーダーたちはとてもおこ怒っていたのです。ほんとうは、ひとびとがじぶんたちのところへきほ来て欲しかったからです。そこで、イエスさまをおだほうほうかんがえなければなりませんでした。そしてついに、イエスさまをつかまえるけいかくを立てたのです。

ある夜、イエスさま
が親しいお友だちと
いっしょにいたとき
のことです。そこ
へ、あの宗教のリー
ダーたちとローマ



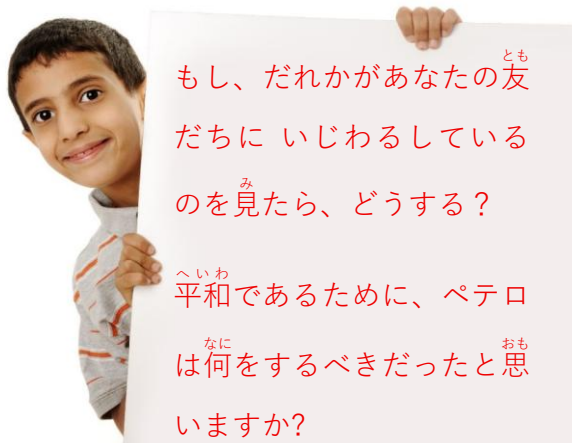
の兵士たちが、イエスさまをつかまえにやって来まし
た。イエスさまのお友だちのペテロは、これを見てと
ても怒りました。そして、けんを取り出して、一人の
耳を切り落としてしまったのです。痛そうですね。さ
て、イエスさまはペテロに何と言ったでしょう。「よ
くやった、ペテロ！」と言ったと思いますか？ イエス
さまは、友だちがこんなやり方で助けようとしたこと
をよろこんだでしょうか。いいえ、よろこびませんでした。

耳を切られてしまった男の人の名前は、マルコスで
した。イエスさまは、マルコスが悲しくて、痛がって
いるのを見ました。するとイエスさまは、その人にそ
っと手をのばして、耳があったところをさわりました。

するとどうでしょう。イエスさまはマルコスの^{みみ}耳をな
おしたのです。^{あた}新^{みみ}しい耳をあげたのです。このお^{はなし}話
を、^{せいしょ}聖書から^よ読んでみましょう。

イエスさまの^{とも}友だちが、これから^{なに}何^おが起こるの
かに^き気づくと、「主よ、^{しゅ}けんで^{たたか}戦ったほうが
いいですか」とたずねた。するとペテロは、け
んを^と取り^だ出して、^{だいさいし}大祭司のしもべのマルコスを
^き切りつけ、その^{みぎみみ}右耳^きを^お切り落とした。イエスさ
まはペテロに^い言った「もうやめなさい。けんを
しまいなさい。」そしてイエスさまは、そのし
もべの^{みみ}耳にさわ^り、それをなおした。～ルカ
22:49-51、ヨハネ 18:10

わあ！すごいですね。イエスさまをつかまえに^き来^{ひと}た人
たちだったのに、イエスさまは^{ひと}その人^{たち}たちにもやさし
くしたのです。マルコスはイエスさまを^{きず}傷つけようと
していたのに、イエスさまはマルコスをなおして、^{たす}助
けてあげました。



もし、だれかがあなたの友^{とも}
だちに いじわるしている
のを見たら、どうする？

へいわ^{へい}であるために、ペテロ
は何^{なに}をするべきだったと思^{おも}
いますか？

イエスさまは、いやなことをした人^{ひと}にやさしくするの
がむずかしいっていうことをよく知っています。だから
こそ、イエスさまに助けてもらうことが大切^{たいせつ}なので
す。だれかがあなたに*いじわる*したとき、心^{こころ}の中^{なか}で
イエスさまにお祈^{いの}りしてみましよう。「イエスさま、
私^{わたし}の心^{こころ}に入^{はい}って、あなたみたいにやさしくでき
るようにしてください」って。これからイエスさまが言^い
ったことを、よく読^よんでみよう。

あなたたちは、「友^{とも}だちは愛^{あい}しなさい。でも、

てき 敵はにくみなさい」 と人々が言っているのを聞
き
いたことがあるでしょう。～マタイ 5:43

ちょっとまって！ こんな言葉、聞いたことがありますか。もしかしたら、そんなふうにする人を見たことがないかもしれませんね。でも、たくさんの人がそうしてしまうのです。

とも
友だちのことは、かん
す
たんに好きになれるけ
れど、自分（じぶん）にいじわる
する人（ひと）を好きになるの
は、とてもむずかしい
ですね。あなたにあま



りやさしくない人（ひと）が思（おも）いうかびますか。もしかしたら、その人（ひと）はあなたを笑（わら）ったり、おしたりしたことがあるかもしれません。

それでは、つづきをよ読んでみましょう。イエスさまは、いじわるする人（ひと）たちに私（わたし）たちがどうしたらいいのか、

とても大切なことを^{たいせつ}教^{おし}えてくれました。イエスさまが
何^{なに}と言^いったか、しっか^より読^よんでみましょう。

**あなたに^{ひと}いじわるする人^{あい}を愛^{あい}しなさい。そし
て、あなたを^{こま}困^{ひと}らせる人^{ひと}のため^{いの}にお祈^{いの}りしな
さい。そうすれば、あなたが^{てん}天^{ちち}の父^{かみ}の神^こさまの子
どもらしく^{こうどう}行^{こう}動^{どう}していることになる。～マタイ
5:44-45**

すごいですね。イエスさまは、私^{わたし}たちに「自分^{じぶん}にい
じわるする人^{ひと}を愛^{あい}しなさい」「あなたを^{こま}困^{ひと}らせる人^{ひと}の
ため^{いの}にお祈^{いの}りしなさい」と言^いいました。その人^{ひと}がいじ
わるでも、いやなことをしたり、言^いったりしても、
私^{わたし}たちはその人^{ひと}を愛^{あい}するよう^いに言^いっています。



「でも、どうしていじわるする
人のために ^{いの}お祈りしなきゃいけ
ないの？」そう ^{おも}思うかもしれま
せんね。「^{たす}助けが^{ひつよう}必要なのは私^{わたし}
の方だよ！」って ^{かん}感じることも
ありますよね。それは、いい
^{しつもん}質問です。たしかに、^{わら}笑われた
り、おされたりしている ^{ひと}人の方^{ほう}

が ^{だす}いちばん^{ひつよう}助けが^み必要に見えますね。でも、ちょっと
^{ちが}違う^{みかた}見方をしてみましょう。もし、あなたがちょっと
^{まちが}間違えた^みただけなのに、だれかがそれを見て ^{わら}笑ったとし
ます。そのとき、あなたがしなきゃいけないことは、
その ^{ひと}人に ^{かえ}やり返すことじゃないのです。ただ、その ^{ひと}人
のことを ^き気にしないで、その ^ば場をはなればいいだけ
なのです。

それか、いっしょに ^{わらい}笑ってしまうのもいいかもしれ
ませんね。あなたが ^き気にしていないって ^わ分かったと、そ
の ^{ひと}人はたいてい、もう ^{わら}笑うのをやめるのです。

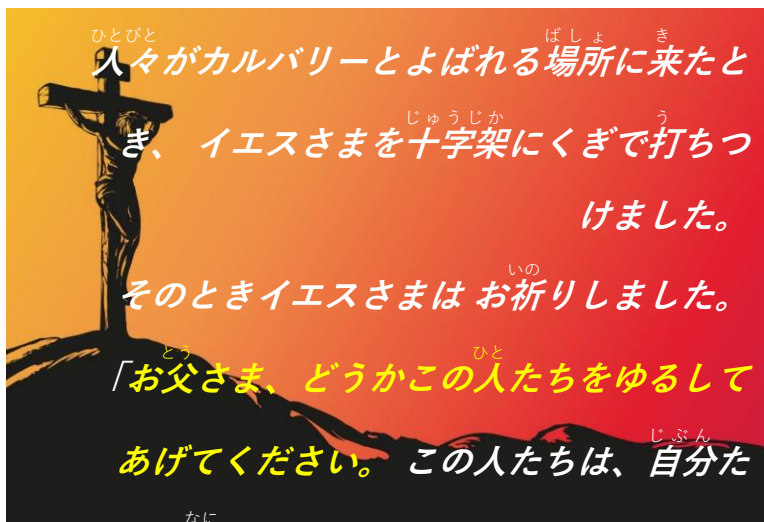
いじわるしたり、笑^{わら}ったりしてくる男^{おとこ}の子^こや女^{おんな}の子^こは、やさしくすることがとってもむずかしいときがあります。

その子^こが住^すんでいる家^{いえ}では、だれかがいつもいじわるをしているのかもしれませんが。だから、その子^こはどうやってやさしくしたらいいのか分^わからないのかもしれませんが。よく考^{かんが}えてみると、いじわるしてくる子^この方^{ほう}が、本^{ほん}当^{とう}はもっ^たと助^{ひつ}けが必要^{ひつよう}なのかもしれません。

その人^{ひと}がいじわるすればするほど、その人^{ひと}はもっ^たとイエスさまの助^{ひつ}けを必要^{ひつよう}としているのです。だから、そういう人^{ひと}のためにお祈^{いの}りしましょう。たとえその人^{ひと}があなたにいじわるしていても、あなたがその人^{ひと}のことを気^きにしているから、お祈^{いの}りことができるのです。



イエスさまは、自分^{じぶん}にいじわるする人^{ひと}たちのことも愛^{あい}しましたか？そして、その人^{ひと}たちのためにお祈^{いの}りしましたか？はい！イエスさまがつかまったあと、人々^{ひとびと}はイエスさまを笑^{わら}ったり、つばをかけたりしました。手^てや足^{あし}にくぎを打^うって十字架^{じゅうじか}につけました！そんなひどいことをされても、イエスさまはその人^{ひと}たちのためにお祈^{いの}りしましたか？はい、お祈^{いの}りしました。



イエスさまは、十字架^{じゅうじか}で死ぬ^しまで、ほんの少し^{すこ}の時間^{じかん}
しかありませんでした。それでもイエスさまは、自分^{じぶん}
にひどいことをしている人^{ひと}たちこそ本当^{ほんとう}は助け^{たす}が必要^{ひつよう}
だと知^しっていたから、その人^{ひと}たちのために^{いの}お祈りしま
した。イエスさまは、父^{ちち}である神^{かみ}さまが自分^{じぶん}を生き返^い
らせることができると知^しっていました。イエスさまは
神^{かみ}さまを信^{しん}じていました。そして、イエスさまは、こ
の人^{ひと}たちも父^{ちち}を信^{しん}じられるようになりますように、と
お祈り^{いの}しました。

でも、イエスさまに*いじわる*して
た人たちは、イエスさまのことも、
天の父のことも*愛*していませんで
した。神さまの*愛*のメッセージなん
て、聞きたくなかったのです。イエ
スさまは、それを*おも*ってとても悲し
い気持ちになりました。なぜなら、



天の父は、もうみんなをゆるしてくれたのに、そのゆるしを受けとろうとしない人たちがいたからです。だからイエスさまは*いの*ちを祈りました。「どうかこの人たちが、神さまのおゆるしを受け入れて、神さまの子どもとしての*さち*の幸せをもらうことができますように」と。
神さまは、私たちがどんな間違いをしても、いつでも*あい*てくれます。そして、あなたが自分のしたこと
で悲しい気持ちになったときは、天の父の言葉を思いだ
出してみましよう。

わたしは、いつまでも変わらない愛で あなた

を愛する。だから、これからもずっと あなた

たにやさしくしていく。～エレミヤ 31:3

かみ 神さまのあなたへの愛は「いつまでも続く愛」です。

これは、かみ 神さまの愛がけっして終わらないということです。

だから、13 ページでイエスさまが言ったとても大切なことを、忘れないようにしましょう。イエスさまはこう言いました。いじわるする人を愛し、その人のために祈るとき、「あなたは天の父の子どもらしく行動しているのです。」つまり、かみ 神さま自身が敵を愛しているということなのです。かみ 神さまは、自分のことを愛してくれない人のことも、愛し続けているのです。そしてイエスさまは、つづ 続けてこう言いました。

もし、あなたにやさしくしてくれる人にだけにやさしくするのだとしたら、かみ 神さまはそれをよろこんでくれるだろうか。かみ 神さまを愛していない人でさえ、自分にやさしくしてくれる人にはやさしくできるものだ。...だから、イエスさまは言った。てき 敵を愛し、その人に良いことをし

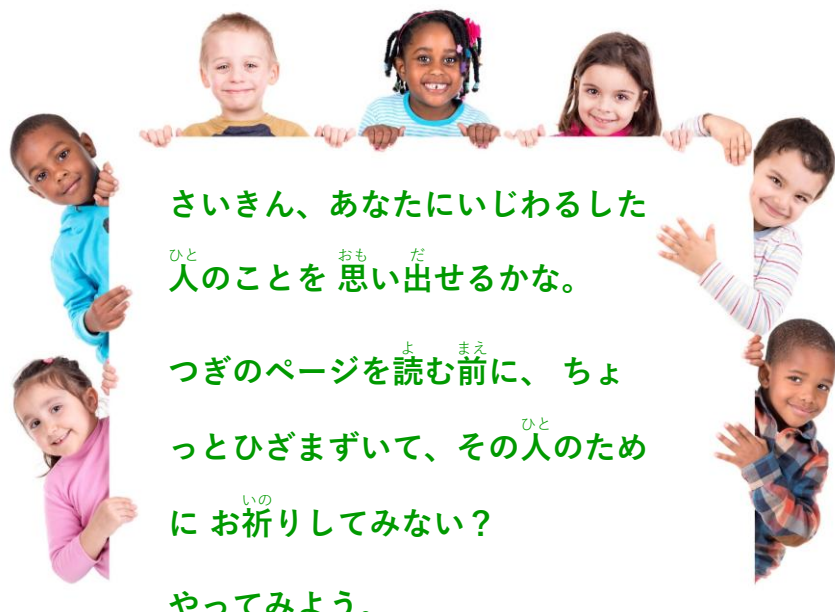
なさい。...そうすれば、あなたは天^{てん}の神^{かみ}さま
の子どもになるでしょう。神^{かみ}さまは、ありがと
うと言^いわない人^{ひと}にも、いじわるな人^{ひと}にも、やさ
しくしてくれる。だから、あなたたちも、天^{てん}
父^{ちち}のようにやさしく、愛^{あい}にあふれた人^{ひと}になりな
さい。

～ルカ 6:33, 35, 36

今^{いま}のイエスさまのお話^{はなし}をよく見^みましたか？ イエスさ
まは、神^{かみ}さまはいつも、“ありがと^いと言^いわない人^{ひと}に
も、いじわるな人^{ひと}にも、やさしい”と言^いいました。

私^{わたし}は、あなたが神^{かみ}さまの心^{こころ}を前^{まえ}よりも少しよく分
かるようになったらいいな、と願^{ねが}っています。世^よの中^{なか}
には、神^{かみ}さまについて間^{まち}違^がったことを言^いう人がたくさ
んいます。神^{かみ}さまは、自分^{じぶん}を愛^{あい}さない人^{ひと}をこらしめる
んだと言^いう人^{ひと}もいます。このようなことを聞^きくと、人^{ひと}
は神^{かみ}さまのことがこわくなってしまいます。言^いうこと
を聞^きかなかったら、神^{かみ}さまにこらしめられるかもしれ
ないと不安^{ふあん}になってしまうのです。でも、私^{わたし}たちは、

かみ
神さまはどんなときでも やさしくて、あい
愛にあふれてい
て、いじわるな人^{ひと}にも、ありがとうと言^いわない人^{ひと}にも
か
変わらず親^{しんせつ}切^つにしてくれるということをま^{まな}なでまし
た。



さいきん、あなたにいじわるした

ひと
人^{ひと}のことをおも^{おも}だ^だ思い出せるかな。

つぎのページをよ^よま^{まえ}え読む前に、ちょ

っとひざまずいて、その人^{ひと}のため
にいの^{いの}祈りしてみない？

やってみよう。

かみ
神さまはあい
愛

イエスさまのとも^{とも}だちに、ヨハネという人^{ひと}がいました。
ヨハネはイエスさまのことをとて^しもよく知^しっていて、

イエスさまが^{てん}天の^{ちち}父について^{はな}話したこともよく^わ分かっていました。そんなヨハネが、神さまの^{あひ}愛についてこんなことを^か書きました。

^{あひ}愛する^{とも}友だちへ、^{わたし}私^{わたし}たちは、おたがいに^{あひ}愛し
^あ合わなければならない。^{あひ}愛は^{かみ}神さまから^く来るもの
だ。…そして、^{かみ}神さまは^{あひ}愛なのだ。～1ヨ
ハネ 4:7-8

ヨハネは「^{かみ}神さまは^{あひ}愛」と^か書きました。本当の^{ほんとう}愛は、
^{かみ}神さまから^き来ます。だから、^{わたし}私^{わたし}たちが^{ひと}人を^{ただ}正しく^{あひ}愛
したいと思うなら、神さまに^{わたし}私^{わたし}たちの^{こころ}心の中に^{なか}住ん
でもらうことが大切なのです。^{たいせつ}神さまは、^{あひ}愛の^{せいれい}聖霊を
^{とお}通して^{わたし}私^{こころ}たちの^{なか}心の中に^き来てくれます。そして、^{かみ}神
さまの^{せいれい}聖霊を^{こころ}心に^う受け^い入れると、^{わたし}私^{かみ}たちは^{かみ}神さまの
ように^い生きられるようになります。^{かみ}神さまが^{ひと}人を^{あひ}愛する
ように、^{わたし}私^{わたし}たちも^{ひと}人を^{あひ}愛せるようになります。



6 ページで、イエスさまが、^{わたし}私にまかせた^{しごと}仕事をやり
とげましたと言ったのをおぼえていますか。その^{しごと}仕事
って何だったのでしょうか？ そう、イエスさまが父の^{ちち}
^{なん}栄光を表^{あらわ}すことでした。だから、イエスさまがした
^{えいこう}すべてのやさしい行い^{おこな}を読めば、^{わたし}私たちは、^{てん}天の父^{ちち}
がいつもしてしていることだということを^{おも}思い出しま
す。詩篇には、^{そら}「空にあるものは、^{かみ}神さまの^{えいこう}栄光をし
^{めす}。」と書かれています（^{しへん}詩篇19:1）。パウロは、
^{わたし}私たちは^{かみ}神さまを^み見ることはできないけれど、^{かみ}神さ
まの^{せいしつ}「性質は、^{かみ}神さまが^{つく}作ったものを^み見れば、はっき
りとわかる。」（ローマ 1:20）と^か書いています。すご

いですね。人間^{にんげん}だけじゃなく、太陽^{たいよう}も、月^{つき}も、星^{ほし}も、
木^きも、動物^{どうぶつ}たちも、みんな神^{かみ}さまのような行^{おこな}いをする
ように作^{つく}られたのです。



わたし
私^{わたし}たちは、酸素^{さんそ}を
吸^すいます。

さあ、とても深^{ふか}く息^{いき}を吸^すってみまし
よう。息^{いき}を吸^すうとき、私^{わたし}たちは酸素^{さんそ}
を吸^すっています。この酸素^{さんそ}を私^{わたし}たち
にくれるのは、

木^きだって知^しって

いましたか？そうですね。でも、
木^きも呼吸^{こきゅう}しているってこと^しも知^し
ていましたか？木^きは、二酸化炭^{にさんかたんそ}素^そ

とよばれるものを吸^すっています。

すごいことは、私^{わたし}たちは、酸素^{さんそ}を吸^すって二酸化炭^{にさんかたんそ}素^そ
を吐^はいて生^いきているのです。これが、木^きが呼吸^{こきゅう}できる
しくみです。木^きは私^{わたし}たちに酸素^{さんそ}をくれて、私^{わたし}たちは
木^きに二酸化炭^{にさんかたんそ}素^そをあげます。これが、大^{おお}きな与^{あた}え合^あ
いのサイクルなのです！



わたし
私^{わたし}たちは、二酸化炭^{にさんかたんそ}素^そ
を吐^はきます。

このように、神^{かみ}さまの作^{つく}ったすべ^{もの}ての物^{かみ}が、神^{かみ}さまが

どんな存在^{そんざい}かを示^{しめ}しています。神^{かみ}さまは、私^{わたし}たちに
必要^{ひつよう}なものをいつも与^{あた}えてくれる、愛^{あい}のあるお父^{とう}さま
なのです。そう思^{おも}うと、なんだか心^{こころ}がほっとします
ね。

神^{かみ}さまが作^{つく}った物^{もの}のサイ
クルは、神^{かみ}さまの律^{りつぽう}法^{ぽう}と
呼^よばれます。それは、い
のちと愛^{あい}のきまりです。

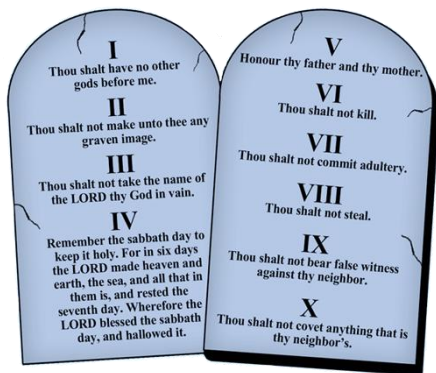
神^{かみ}さまは、私^{わたし}たちに神^{かみ}さ
まの言^いうこと^きを聞^きかせる

ためにこのきまりを作^{つく}ったのではありません。違^{ちが}うの
です。神^{かみ}さまは私^{わたし}たちを愛^{あい}しているから、私^{わたし}たちを
まもる
守^{もも}るためにこのきまりがあるのです。

神^{かみ}さまが私^{わたし}たちを作^{つく}ったのだから、私^{わたし}たちにとって

何^{なに}が一番良^{いちばん}いのかを知^しっているのは神^{かみ}さまだけです。

もし、私^{わたし}たちが息^{いき}をするのをやめてしまったら、命^{いのち}
のきまりがこわれてしまって、私^{わたし}たちは生きていけ
なくなります。でも、ここで大切^{たいせつ}なのは、息^{いき}をしない



から^{かみ}神さまが^し死なせるということではありません。^{かみ}神さまは、そんなふうにして^{わたし}私たちをこらしめたりしません。これは、^{かみ}神さまの^{かみ}きまりは、そんなふうには^{はたら}働かないからです。

たとえば、あなたと^{とも}友だちが^{いえ}家で^{あそ}遊んでいるとしましょう。とても^{あつ}暑い^ひ日なので、^{かあ}お母さんが^{おお}大きな^{せんぷうき}扇風機をつけてくれます。あなたは^{とも}友だちに「^{ゆび}指を^{せんぷうき}扇風機に入れちゃだめだよ。けがしちゃうからね。」と言います。どうして、あなたは^いそう言ったのですか？ ^{した}下の^{ふた}二つのうち、^{ただ}正しい^{ほう}方に○をつけましょう。

1. あなたが「^{ゆび}指を^{せんぷうき}扇風機に入れちゃだめだよ」と言ったのは、^{とも}友だちを^{じぶん}自分の^{おも}思いどおりにしたかったからで、もし^い入れたら^{あなた}あなたが^{とも}お友だちの^{ゆび}指を^{きず}傷つけることになる。
2. あなたが「^{ゆび}指を^{せんぷうき}扇風機に入れちゃだめだよ」と言ったのは、^{とも}お友だちのことが^{たいせつ}大切で、その^こ子に^{せんぷうき}扇風機で^{ゆび}指を^ほけがして^ほ欲しくなかったから。

きっと、あなたは ^{ばん}2番に○をつけましたね。^{かみ}神さまの

りっぼう 律法をやぶることを “罪”^{つみ} と言います。ヨハネは ^{よ は ね}「罪^{つみ}とは、^{ほう}法をやぶることです」^か(1 ヨハネ 3:4) と書いています。罪^{つみ}とは、^{じぶん かって えら}自分勝手を選ぶことです。そして、^{じぶん かって}自分勝手とは、^{じんせい}あなたの人生のための神さまのデザイン^{かみ}（神さまの思いやりにみちた計画^{けいかく}）の中^{なか}にいたくないということです。



もし、^{とも}友だちがあなたの言う^いことを聞^きかないで、^{ほんとう}本当に指^{ゆび}を扇風機^{せんふうき}に入^いれてしまったらどうなるでしょうか。そう

ですね、指^{ゆび}をけがしてしまいます。^{とも}友だちをけがさせたのはだれですか？ あなたじゃありません。けがをさせたのは^{せんふうき}扇風機ですね。これが罪^{つみ}のしくみなのです。

^{わたし}私たちが神さまの言葉^{かみ}を聞^きかないで自分勝手^{じぶん かって}にしてしまうと、^{わたし}私たちは自分^{じぶん}で自分^{じぶん}を傷^{きず}つけてしまうのです。罪^{つみ}を犯^{おか}したときに、神さまが私^{かみ}たちを傷^{わたし}つけるわけでは^{きず}ありません。おぼえておきましょう。神^{かみ}さまは^{あい}愛です。神^{かみ}さまの律法^{りっぼう}は、神^{かみ}さま心^{こころ}、つまり神^{かみ}

さまの生き方を^{い かた おし}教えてくれるのです。そして、罪がど
んなに危ないものかを^{あぶ まえ し}前もって知らせてくれるのです。
パウロという人は、神さまの^{ひと かみ りつほう}律法について、こんなこ
とを^か書いています。

愛は、だれにも悪いことをしない。なぜなら、

**愛こそが、命のしくみの律法だから。～ロー
マ 13:10**

私たちが、神さまの^{かみ りつほう おし}律法が教えてくれたように生き
るとき、人に^{ひと}いじわるをしたり、だれかを^{きず}傷つけたり
することはありません。たとえ^{あいて わたし}相手が私たちを^{きず}傷つ
けたとしても、^{わたし}私たちはその人を^{ひと きず}傷つけたりしませ
ん。神さまが^{かみ}人を^{ひと}愛する^{あい}ように、^{わたし}私たちが^{ひと}人を^{あい}愛せ
るようになるでしょう。

ある日、ある人がイエスさまのところに^き来て、「^{かみ}神さ
まの^{りつほう なか}律法の中で、^{たいせつ おし なん}いちばん大切な教えは何ですか」と
^{かみ}たずねました（マルコ 12:28）。神さまが^{わたし}私たちに
^{いちばんたいせつ おし なん おも}一番大切にしてほしい教えは何だと思いませんか？ 私
たちにとって^よ良いことは、イエスさまがその^{こた}答えをは

つきり^{おし}教えてくれたことです。イエスさまはこう^い言いました。

「^{こころ}心^ををこめて、^{おも}たましい^ををこめて、^{おも}思い^ををこめて、^{ちから}力^ををこめて、^{かみ}あなたの神^をを愛^{あい}なさい。」そして、^に二^{ばん}番^め目に^{じゅうよう}重^{じぶん}要^ななのは「^{じぶん}自分^をを大切^{たいせつ}にするように、^{ひと}まわり^のの人も大切^{たいせつ}になさい。」。この^{ふた}二^つつよりも^{じゅうよう}重^{おし}要^{ほか}な教^ええは、^に他^にない。～マルコ 12:30-31

だから、神^{かみ}さまがくれた^{いちばんじゅうよう}一^{ばん}番^め重^{おし}要^{かみ}な教^ええは、神^{かみ}さまを^{こころ}心^{から}から愛^{あい}することです。そして、どんなことがあってもその愛^{あい}を^て手^でばなさないこと。^に二^{ばん}番^め目に^{じゅうよう}重^{じぶん}要^ななのは、^{じぶん}自分^をを大切^{たいせつ}にするように、^{ひと}まわり^のの人も大切^{たいせつ}にすることです。あなたは、^{じぶん}自分^にに危^{あぶ}ないことや悪^{わる}いことが起きて欲^ほしくないですよね。だから、私^{わたし}たちも^{ひと}人^にに悪^{わる}いことをしたり、^{ひと}人^をを傷^{きず}ついたりしてはいけないのです。

どうして一番^{いちばんじゅうよう}重要な^{おし}教えが、まず^{かみ}神さ
 まを^{あい}愛することなのでしょう。神さまが^{かみ}
 自分^{じぶん}勝手だから？ そんなことはありませ
 ん。その^{こた}答えは、私^{わたし}たちが^{かみ}神さまをど
 う^{あい}愛するかなのです。私^{わたし}たちは、神さ
 まが^{しあわ}くれる^う幸せをよろこんで受けとる
 ことで、神さまを^{かみ}愛していることを^{あらわ}表すのです。そ
 うすると、神さまは^{かみ}私^{わたし}たちの^{こころ}心の中に^{なか}住んで、人^{ひと}を
 正^{ただ}しく^{あい}愛する^{ちから}力をくれるのです。この^{ちから}力のことを神
 さまの^{めぐ}恵^いみと言います。神さまの^{かみ}恵^{めぐ}みは、私^{わたし}たちが
 自分^{じぶん}勝手じゃない^{あい}愛の^い生き方^{かた}を^{つづ}続けられるように^{たす}助け
 てくれる^{ちから}力なのです（ローマ 1:5、テトス 2:11-12）。
 私^{わたし}たちは、息^{いき}をすることだって、神さまの^{かみ}恵^{めぐ}みがある
 からできるのです。



リモコンで^{うご}動くおもちゃを^も持っていますか？ そのおも
 ちゃが^{うご}動くためには、何^{なに}が必要^{ひつよう}ですか？ そう、電池^{でんち}で
 すね。神さまのことをあなたの^{かみ}電池^{でんち}だと思^{おも}ってみまし
 ょう。私^{わたし}たちは、神さまがいないと、^{かみ}動^{うご}くことも、

かんが 考^{かんが}えることも、はな 話^{はな}すことも、き 聞^きくことも、においを
かぐことも、み 見^みることもできないのです。

イエスさまも、おな 同^{おな}じようにい^いに生きていました。イエスさ
まはこう言^いいました。「すべてのことは、わ^{わたし}し ち^{ちち}私^{わたし}の父^{ちち}が
わ^{わたし}し 私^{わたし}にくれたものです」(ルカ 10:22)。イエスさまが、
あんなにすばらしいことをしたり、た^{ひと}くさん^{たす}の人^{ひと}を助^{たす}
けたりできたのは、か^{かみ}み 神^{かみ}さまがイエスさまのなか^{なか}にす^すむこ
とを受け^うけい^いれたからです。イエスさまは、か^{かみ}み 神^{かみ}さまを
じぶん^{じぶん} でんち^{でんち} おも^{おも}って、か^{かみ}み 神^{かみ}さまのめぐ^{めぐ}みを受け^うけい^いれました
(ルカ 2:40)。そしてイエスさまは、こう言^いいました。

わ^{わたし}し はな 話^{はな}していること^{こと}ばは、わ^{わたし}し こと^{こと}ば 私^{わたし}の言葉^{ことば}ではない。

わ^{わたし}し なか 中^{なか}にす^すんでいる父^{ちち}なる神^{かみ}さまが、わ^{わたし}し とお
私^{わたし}の中^{なか}に住^すんでいる父^{ちち}なる神^{かみ}さまが、私^{わたし}を通^{とお}
してそのわざをしている。～ヨハネ 14:10

イエスさまがしたことは、すべて父^{ちち}のわざでした。だ
からイエスさまは、ピリポにこう言^いいました。「わ^{わたし}し
み^み ひと 人^{ひと}は、ち^{ちち} 父^{ちち}なる神^{かみ}さまをみ^みたのです」(ヨハネ
14:9)。

イエスさまは、だれかを^{きず}傷つけたことがありましたか？ ないですね。どうしてでしょう？ それは、神さまはだれかを^{きず}傷つけるようなことを^{ぜったい}絶対にしないからです。イエスさまは、人の^{ひと}心^{こころ}を^{たす}助けて、いやしてくれましたか？ そうですね。どうしてでしょう？ 神さまは、いつも人を^{ひと}助^{たす}けて、いやしてくれるからです。

あなたは、^{びょうき}病気になったことがありますか？ かぜをひいたり、おなかが^{いた}痛くなったりしたことがありますか？ そのとき、お父さんや^{かあ}お母さんはあなたをしかったですか？ ^{ばつ}罰をあたえましたか？ そんなことないですね。じゃあ、どうしましたか？ ^{げんき}元気になるように^{たす}助けてくれましたね。^{げんき}元気になるように、お^{くすり}薬をくれたり、お^{せ わ}世話をしたりしたはずです。

^{つみ}罪を、^{びょうき}病気だと思^{おも}ってみましょう。あなたの^{てん}天の^{ちち}父は、あなたを^{げんき}病気になるからといって^{ばつ}罰を^{あた}与え^{おも}ると思^{おも}いますか？ そんなことはありません！ 神さまは、あなたが^{げんき}元気になるように^{たす}助けたいのです。

かみ
神さまは、あなたを取りのぞきたいんじゃないくて、あ
なたを苦しめている罪つみという病氣びょうきを取りのぞいてあげ
たいからお薬くすりをくれるのです。



かみ
神さまがくれるお薬くすりは、なんとイエスさまなのです。
そう、神さまのお薬くすりは人ひとです！私わたしたちが飲むお薬くすり
が体からだの中なかに入はいって元氣げんきにしてくれるように、イエス
さまにも、私わたしたちの心こころの中なかに住すんでもらう必要ひつようがあ
るのです。イエスさまは、私わたしたちを病氣びょうきにしている
つみ
罪とを取りのぞくことができます。イエスさまなしでは、
わたし
私げんきたちは元氣になることができません。イエスさま

はこう言いました。^{わたし}「^{わたし}私^{なし}には、^{あなた}あなたは^{なに}何^もできない」^{（ヨハネ 15:5）}。

イエスさまがすることは、すべて父^{ちち}の神^{かみ}さまがイエスさまを^{とお}通してしていることだということを^{おぼ}覚えておきましょう。だから、^{わたし}私^{げんき}たちを^{くすり}元気にするお薬は、イエスさまの^{なか}中^{はたら}で働^{ちち}いている父^{かみ}の神^{かみ}さまなのです。

そして、^{つみ}罪^{びょうき}という病^{すこ}気が少しずつなくなっていくと、^{わたし}私^{こころ}たちの心^{てん}はだんだん天^{ちち}の父^にに似てきます。^{かみ}神^{かみ}さまがいつもやさしくて、^{あい}愛^{ひと}にあふれていて、人^{しんせつ}に親切^{しんせつ}にしてくれるように、^{わたし}私^{ひと}たちもそんなふう^{ひと}に人^{ひと}にやさしくて、^{おも}思いやり^{しんせつ}にあふれて、親切^{しんせつ}になるのです。

^{だいこうずい}大洪水^{かみ}と神^{こころ}さまの心

さあ、^{かみ}神^{こころ}さまのやさしい心^{すこ}について少し^わ分^わかってきたところで、^{せいしよ}聖書^{なか}の中^{なか}にある ちょっとむずかしいお^{はなし}話^よをいくつか^{はなし}読^{なか}んでみましょう。そのお^{はなし}話^{なか}の中には、まるで^{かみ}神^{ひと}さまが人^{きず}を傷^みつけたように見えるものもあります。でも、^{わたし}私^したちはもう知^{かみ}っていますね。神^{かみ}さま

は、人を悪くしたり、傷つけたりしないってことを。

神さまは、たとえ神さまのことが好きじゃない人にも、
いつもやさしいのです。それでは、聖書の創世記を開
いて、最初のお話を読んでみましょう。それは、
地球中が水でおおわれた大洪水のお話です。

神さまは、人の悪さが地上でとても大きくなっ
てしまったのを見た。人の心の思いが、いつ
も悪いことばかりになっていた。それを見て、
神さまはとても悲しくなり、心を痛めた。そ
して神さまは言った。「わたしは、人間も、
動物も、鳥も、地上にいるすべての生きものを
地からほろぼす！わたしは、彼らを作ったこと
をこうかいしている。」～創世記6:5-7

えっ、まさか、神さまは本当にこの人たちをほろぼす
と言っているのでしょうか？神さまは、人が神さまの
ようにしないから、その人たちを傷つけようとしてい
るのでしょうか？このまま読むと、神さまの心がゆ

れ動^{うご}いているように 見^みえるかもしれないですね。最初^{さいしよ}
はとても悲^{かな}しんで、その後^{あと}でほろぼすと言^いって、また
悲^{かな}しいと言^いっています。うーん、本^{ほん}当^{とう}に神^{かみ}さまの性^{せい}格^{かく}
って そんなふうに変^かわるのでしょうか？いいえ、変^か
りません。神^{かみ}さまは、こ^いう言^いっています。「わたしは
主^{しゅ}。私^{わたし}は変^かわることはない。」（マラキ3:6）パウロ
も、イエスさまについて 同^{おな}じこ^{おし}を教^{おし}えています。

「イエス・キリストは、きのうも、今^{きょう}日も、いつま^か
でも 変^かわることはない。」（ヘブル13:8）

イエスさまが、いじわるされても親^{しん}切^{せつ}にしたり人^{にん}を助^{たす}
けたりしていたのは、神^{かみ}さまがいつもそうしているか
らなのです。神^{かみ}さまは、いじわるをしようとする人^{ひと}や、
神^{かみ}さまのよう^いに生^{ひと}きたくない人^{しん}にも、いつも親^{しん}切^{せつ}なの
です。そして、私^{わたし}たちは、神^{かみ}さまの心^{こころ}は、絶^ぜ対^{たい}に変^か
わらないことを学^{まな}びました。神^{かみ}さまは、昔^{むかし}の人^{ひと}たち
にも、今^{いま}の人^{ひと}たちと同^{おな}じよう^{かみ}にしているのです。「神^{かみ}
さまはいつも、感^{かん}謝^{しゃ}しない人^{ひと}や、いじわるな人^{ひと}にさえ
親^{しん}切^{せつ}にしてくれる」（ルカ6:35）。

かみ ひとびと いのち あい りつぽう まも い
神さまは、人々が命と愛の律法を守って生きていな
み かな まえ はな
いのを見て、とても悲しくなりました。前に話した
せんぷうき はなし で とも じぶん ゆび
扇風機のお話に出てきた友だちのように、自分の指
せんぷうき い じぶん じぶん
を扇風機に入れようとしていたのです。自分で自分を
きず かみ ひと
傷つけようとしていたんです。でも、神さまはその人
たちを とても愛していたので、の あ とも
箱舟という大きな船を作るように言いました。どうし
はこぶね おお ふね つく い
てでしょうか？なぜなら、神さまは、120年後に
せかいじゅう だいこうずい く し
世界中をおおう大洪水が来ることを知っていたからな
のです。かみ ひと どうぶつ たす ほ
神さまは、すべての人と動物に助かって欲し
かったのです。でも、かみ おも き はこぶね はい
神さまの思いを聞いて箱舟に入
ったのは、の あ かぞく とくべつ えら
箱舟の家族だけでした。そして、特別に選
すこ どうぶつ たす
ばれた少しの動物たちといっしょに助けられたのです。



でも、どうして洪水こうずいが来たきのでしょうか。神かみさまは、
自分じぶんのことが気きに入いらない人ひとたちをやっつけたくて
洪水こうずいを起おこしたのでしょうか。「そうだ」と言う人も
いるけれど、私わたしたちは知しっていますね。神かみさまは愛あい
そのもので、いつも「**恩知おんしらずな人ひとや、いじわるな人ひと**
にも親切しんせつ」で、神かみさまの「**愛あいは人ひとに害がいを与あたえない**」と
いうことです（ローマ13:10）。

前まえに、木きのお話はなしをしたのを覚えていますか。木きは私わたし
たちに酸素さんそをくれて、私わたしたちは木きに二酸化炭素にさんかたんそをあ
げるのです。このことから分わかるのは、神かみさまが作つく
た世界せかいのすべてはつながっているということなのです。

神かみさまがこの世界せかいのために最初さいしよに作つくった人ひとは、アダム
とエバの二人ににんでした。ある日ひ、二人ふたりは神かみさまの教おしえに
従したがわないことを選えらんでしまい、命いのちと愛あいのきまりをや
ぶってしまいました。二人ふたりは、神かみさまの生いき方かたにさか
らったのです。興味深きょうみぶかいことに、二人ふたりが罪つみを犯おかしたこ
とで、そのえいきょうは二人ふたりだけじゃなくて、地球ちきゅうに
も広ひろがって行あきました。アダムとエバが罪つみを犯おかした後あと、

かみ ちきゅう お にん おし
神さまは地球にどんなことが起きるかを二人に教えま
した。



あなたがしたこと
せいで、地面はのろ
われることになる。

これからは、食べ物
を育てるのに苦労す
るだろう。あなたが

た 食べるのは植物だけど、地面からは、いばら
ざっそう も たくさん生えてくるようになる。

～ 創世記 3:17-18

トゲにささって、けがをしたことがありますか？この
トゲは、この地球に罪が入ってきたから生えるようにな
ったのです。そして、神さまは私たち人間を地面
から作ったことを知っていましたか？

そのあと、主なる神さまは 地面の土をとって、
ひと かたち つく 人を形を作った。そして、その人の鼻に “命

いの^{いき}息”をふきこんだ。すると、その人^{ひと}は生きて^い
いる^{もの}者になった。～創世記 2:7 ^{そうせいいき}

どうして罪^{つみ}が地球^{ちきゅう}にえいきょうするのかわかりますか？ 私^{わたし}たちは地面^{じめん}の土^{つち}から作^{つく}られました。だから、私^{わたし}たちが罪^{つみ}をおかすと、そのえいきょうは私^{わたし}たちが生^うまれた地球^{ちきゅう}にも広^{ひろ}がっていくのです。これについて、聖書^{せいしょ}のイザヤ書^{しよ}にも書^かかれています。

地球^{ちきゅう}がよごれてしまったのは、そこに住^すむ人^{ひと}た^{かみ}ちが神^{かみ}さまのきまりをまも^{まも}らず、神^{かみ}さまが決め^きたきまり（お祈^{いの}りの時間^{じかん}）を^か変^かえてしまったからだ。…地球^{ちきゅう}はのろわれて、人々^{ひとびと}は自分^{じぶん}たちの罪^{つみ}のせい^{くる}で苦しむようになってしまった。

～イザヤ書 24:5-6 ^{しよ}

ここでもまた、私^{わたし}たちの罪^{つみ}の行^{おこな}いは、私^{わたし}たち自身^{じしん}だけだけでなく、地球^{ちきゅう}にもえいきょうをあた^{あた}えています。最初^{さいしょ}に、罪^{つみ}がこの世界^{せかい}に入^{はい}ってきたことで、地面^{じめん}からトゲ^はが生^はえるようになったことがわ^わかります。

いちばんさいしょ ちじょう は
一番最初のいばらが地上に生えてか

やく ねん
ら約4,000年がたったころ、ローマ

へいし
の兵士たちはイエスさまにいばらの

かんむり つく
冠 を作って、むりやりかぶせまし

へいし
た。兵士たちは、イエスさまが

わたし おう い き
「私 は王です」と言ったのを聞い



て、からかっていたのです。でも、兵士たちはイエス
さまが言った「王」という言葉の 本当の意味を分かっ
ていませんでした。

イエスさまが言った「王」というのは、この世界にあ
る国の王さまとは ぜんぜん違う意味でした。イエスさ
まの王国は、どこかにある大きなお城や町のことでは
ないのです。それは、私たちが他の人のことをどん
なふうに 考 え て、どんなふうに行動するかに関係し
ている王国なのです。イエスさまは、自分の王国につ
いて こんなふうに言いました。

かみ おうこく め み かたち
「神さまの王国は、目で見える 形 ではやって
こ 来ない。「見て、ここにある！」とか「あそ

こにある！」と言^いえるものではない。なぜなら、
かみ 神さまの王^{おう}国^{こく}は あ^あな^なた^たの 心^{こころ} の中^{なか}にあるから
だ。」 ～ルカ^{ふくいんしょ}の福音書 17:20-21



すごいですね。かみ 神さまの王^{おう}国^{こく}
は、やさしさとあ^{あい}い^{おも}と愛^{あい}と思^{おも}いや^いり
でい^いっぱ^いいのせ^せかい^{かい}の世界^{せかい}な^なのです。
それはす^すべ^べて、わ^{わたし}た^たち^ちのこ^ころ^ろ 心^{こころ}
の中^{なか} (脳^{のう}の中^{なか}) で かん^{かん}が^が 考^かえ^え方^{ほう}を
か^か 変^へえ^えて^てい^いくこ^こと^とです。そして、イエスさまのよう^{よう}に
こう^{こう}ど^{どう}う 行^{こう}動^{どう}すること^{こと}な^なのです。

パウロは、わ^{わたし}た^たち^ちにこ^こう^うい^いま^ました。 「あ^あな^なた^たた^たち
も、イエス・キリストのこ^ころ^ろ をも^も持^もちな^なさい」 (ピ^ピリ^リピ^ピ
2:5)。じゃあ、どうしてイエスさまのこ^ころ^ろ がわ^{わたし}た^たち^ち
なか ひ^ひつ^つよう 必^ひ要^{よう}な^なので^でしょう^うか？ 神さまはわ^{わたし}た^たち^ちに こ^こう^う
い^い言^いっ^って^てい^いま^ます。

わたし かんが かんが ちが
私の考えは、あなたたちの考えとは違う。

い かた わたし い ちが
あなたたちの生き方も、私の生き方とは違う。

しゅ かみ い てん ち たか
と、主なる神さまは言う。天が地よりも高いよ

わたし い かた い かた
うに、私の生き方はあなたたちの生き方より

たか かんが かんが
高く、わたしの考えはあなたたちの考えより

たか しよ
も高い。～イザヤ書 55:8-9

かみ かんが かた わたし かんが かた
神さまの考え方は、私たちの考え方よりずっとす

わたし
ばらしいのです。だから、私たちがイエスさまのよ

かんが こうどう
うに考えると、イエスさまのように行動できるよう

わたし ちから
になるのです。でも、それは私たちの力だけでは

こころ かんが かた わたし
できません。イエスさまの心と考え方を私たちの

こころ なか う い
心の中に受け入れると、それができるようになるの
です。

わたし のう ひと せつ き
私たちの脳は、人にどんなふうに接するかを決める

こころ のう
ところです。だから、心と脳はつながっているのだ

しんぞう からだじゅう ち おく だ
す。そして、心臓は体中に血を送り出しています。

せいしよ い いのち ち なか
聖書には、「すべての生きものの命は血の中にある」

か
(レビ17:11)と書かれています。

イエスさまは、こう言いました。 「^{わたし}私^{みち}は道であり、
^{しんり}真理であり、^{いのち}命である。^{わたし}私^{とお}を通らなければ、だれも
^{ちち}父^いのもとへ行くことはできない」 (ヨハネ 14:6)。イ
エスさまは、^{わたし}私^{いのち}たちの命^{ささ}を支えなのです。イエスさ
まがいるから、^{わたし}私^いたちは生きることができるのです。
だから、イエスさまが^{わたし}私^{こころ}たちの心^{なか}の中に住むことが
とても大切なのです。^{たいせつ}預言者^{よげんしや}エレミヤは、イエスさま
がいない心^{こころ}は「^{なに}何^まよりも曲^まがっている。」 (エレミ
ヤ 17:9) と言っています。「曲^まがっている」という
のは、^{わたし}私^{こころ}たちの心^{こころ}がうそをつく (だます) というこ
とです。つまり、^{かみ}神^{ただ}さまについて正^{しん}しくないことを信
じてしまうという意味なのです。でも、^{かみ}神^{かみ}さまは、そ
んな心^{こころ}のままにしておきません。^{かみ}神^{わたし}さまは、私^{わたし}たち
に^{あた}新^{こころ}しい心^{こころ}をくれます。その心^{こころ}は、^{つみ}罪^{おか}を犯^{まえ}す前に
^{ひと}人^もが持っていたような、^{かみ}神^{かみ}さまのやさしい、ゆたかな
^{いのち}命^みで満^{こころ}たされた心^{こころ}なのです。

わたし
私は、がんこになったあなた

こころ と
たちの心を取りのぞき、

ちゅうじつ あたら
忠実でありたいという新し

こころ あた
い心を与える。あなたたち

かんが
は、きれいでまっすぐな考え

も わたし れい
を持つようになるだろう。なぜなら、私の霊

なか い わたし まも
をあなたたちの中に入れ、私のきまりを守り

したが ころ あた
たい、従いたいという心を与えるから

しよ
だ。...～エゼキエル書 36:26-27

かみ わたし れい ころ い
神さまが「私の霊をあなたたちの心に入れる」と
い いうのは、どういう意味なのでしょう。まあ、神さ
まの霊は、あなたの友だち（PAL：パル）みたいなもの
だと思ってみましょう。

P = Presence (存在) A = Attitude (態度) L = Life (人生)



かみ せい れい
神さまの聖なる霊が

なか す
あなたの中に住むと

かみ
いうことは、神さま

じしん ところ
自身のやさしい心、

おも き も
思いやりの気持ち、



いのち なか
そして命が、あなたの中にいるということです。

せい ひと はたら
「聖なる」というのは、人のために働くことをよろ

い み かみ はたら
こぶ、という意味です。神さまがあなたのために働

かんが
いているって、そんなふうに考えたことがあります

かみ ささ ひと おも
か？神さまは、あなたを支える人だと思ったことがあ
りますか？

あい ちち かみ ひつよう
愛にあふれた父の神さまは、あなたに必要なものをす

あた かみ わたし
べて与えることをよろこんでいます。神さまは私た

おし したが い
ちが教えやきまりに従えるようになってい

かみ おし したが かみ
す。神さまのきまりや教えに従うことは、神さまの

せい れい ところ み しぜん う
聖なる霊で心が満たされているときに自然に生まれ
てくるものなのです。

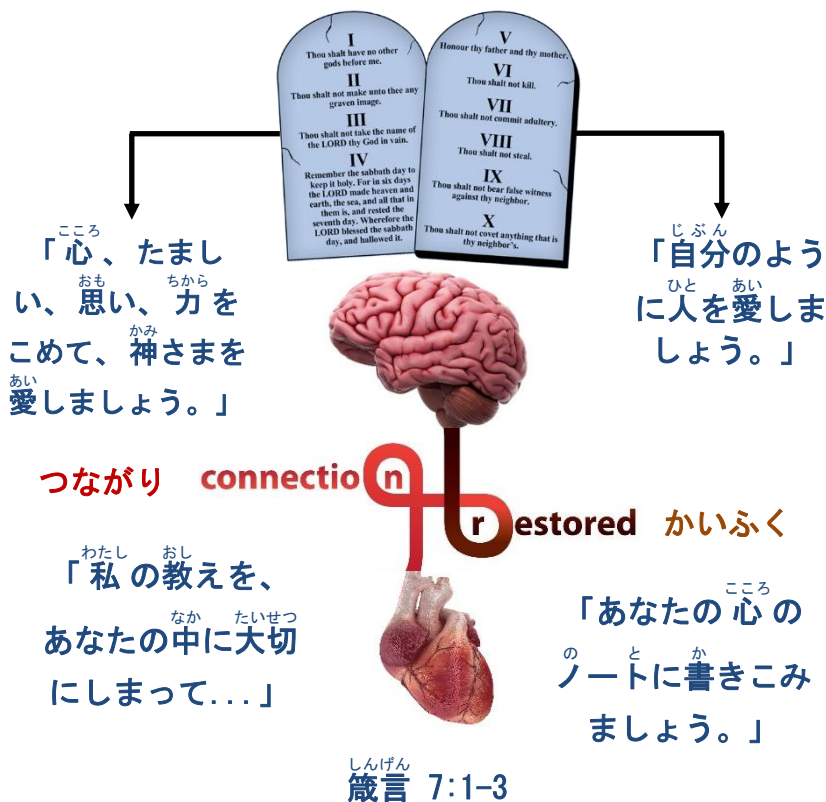


あなたは、神さまに^{かみ}従^{したが}う
ことが^す好きになります。そ
れは、ごほうびが^ほ欲しいか
らでも、ひどい^{ばつ}罰^にから逃げ
たいからでもあります。

ほんとう ^{かみ} ^{つか} ^す
本当に神さまに仕えるのが好きだから、イエスさまが
そうしたように、人^{ひと}を助^{たす}けたり、人^{ひと}にやさしくしたり
することで ^{かみ} ^{えいこう} ^{あらわ}
神さまの栄光を表^{あらわ}すことができるので
す。

^{わたし} ^{こうどう} ^{こころ} ^{なか} ^{かみ}
私たちがどんなふうに行^{こうどう}動するかは、心^{こころ}の中^{なか}で神さ
まをどう^{おも}思っているかによって大きく^{おお}変^かわってきます。
^{かみ} ^{あい} ^{しんせつ}
神さまは、やさしくて、愛^{あい}にあふれていて、親切^{しんせつ}だと
^{おも}
思いますか？それとも、いじわるでいつもあなたの
^{まちが} ^み ^{ばつ} ^{おも}
間違^{まちが}いを見つけてすぐに罰^{ばつ}しようとしていると思^{おも}いま
すか？私^{わたし}たちの考^{かんが}え方^{かた}や行^{こうどう}動は、どんな^{かみ}神さまを
^{こころ} ^{なか} ^{しん} ^き
心^{こころ}の中^{なか}で信^{しん}じているかによって決^きまるのです！だか
らこそ、^{かみ} ^{かみ} ^{りっぼう} ^{こころ} ^{おも}
神^{かみ}さまは、神^{かみ}の律法^{りっぼう}をあなたたちの心^{こころ}と思^{おも}
^か ^こ ^い
い^かに書^こき込^いむと言^いっているのです。

いつか、^{わたし}私、^{しゅ}主が^{かれ}彼らの^{こころ}心と^{おも}思いに^{わたし}私の^{りっぽう}律法を^か書き^こ込む^{とき}時が^く来る^{わたし}だろう。私は^{かれ}彼らの^{かみ}神（^{ささ}支える人）となり、^{かれ}彼らは^{わたし}私の^{みん}民（しも^べべ）となる。～ヘブライ人への手紙 8:10



イエスさまは、ローマの兵士たちが いばらの冠^{かんむり}を^{ちから}力いっぱい^{あたま}頭に^お押しつけることをゆるしました。そ

れは、イエスさまが 私たちをととても深く愛している
ということを見せるためだったのです。私たちの罪
がこれらのいばらを生んだのに、イエスさまはその罪
を私たちの代わりに受けてくれたのです。

私たちの心や考えは、「トゲだらけ」になってし
まうことがあります。いばらは、本当ならきれいなは
ずの庭の美しさを かくしてしまいます。こわれやす
くてきれいなバラも、トゲがあると傷つける花になっ
てしまいます。いばらや雑草があるということは、こ
の世界には良いものと悪いものが 混ってしまっている
という証拠です。神さまは、本当は良いものだけがあ
る世界を作りたいかったのです。悲しいですね。

罪のせいで、神さまの美しさや やさしさは、ずるが
しこくて人をだますいばらにおおわれて隠されてしま
いました。イエスさまは、そのいばらの 冠 がやさし
くて愛にあふれた心（頭）をつきさすことをゆるし
ました。それは、いばらをかぶるイエスさまの愛を見

たとき、^{わたし}私^{こころ}たちの心^{こころ}にチクッとささるからです。

^{わたし}私^{にんげん}たち人間^{つみぶか}の罪^{こころ}深い心^{かんが}や考^{かんが}えが、イエスさまを
^{じゅうじか}十字架^{げんいん}にかける原因^{げんいん}になったとき、イエスさまは、ま
^{わたし}ず私^{かんが}たちの考^{かんが}えがどれほど暗^{くら}くなっているかを見せ
なければならなかったのです。そうしないと、イエス
さまの^{あい}愛^みが見えなかったからです。だから、イエスさ
まが^{じゅうじか}十字架^{あいだ}にかかっている間^{あいだ}、「^{ぜんち}全地^{くら}が暗^{くら}くなった」

(ルカ 23:44) のです。そしてイエスさまが死^しんだと
き、「^{おお}大^{じしん}きな地震^おが起^{いわ}こり、岩^{いわ}がさけた」 (マタイ
27:51) のです。

イエスさまが死^しんだとき、この地球^{ちきゅう}そのものがえいき
ょうを受^うけたことが分^わかりますか？地球^{ちきゅう}は、自分^{じぶん}を作^{つく}
ってくれた人^{ひと}が苦^{くる}しめられ、傷^{きず}つけられているのを見^み
て、反^{はん}応^{のう}したのです。地球^{ちきゅう}に広^{ひろ}がった暗^{くら}やみは、私^{わたし}
たちの^{こころ}心^{なか}の中^{くら}にある暗^{くら}い思^{おも}いをかがみのように映^{うつ}し
出^だしました。それは、私^{わたし}たちが本^{ほん}当^{とう}の神^{かみ}さまのやさ
しい^{あい}愛^{こころ}の心^わをよ^わく分^わかってい^{まちが}なかつたし、間^{まちが}違^{まちが}って
^り理^{かい}解^{かい}していたということなのです。でもイエスさまの

おかげで、^{わたし}私^{くら}たちはその暗^むやみの向^{かみ}こうにある神さ
まの本当^{ほんとう}の美^{うつく}しさ、やさしさ、そして永遠^{えいえん}に続^{つづ}く愛^{あい}
を^み見ることができるようになりました。神^{かみ}さまは、
本当^{ほんとう}のお父^{とう}さんのようにすべての子^こどもを愛^{あい}していて、
決^{けつ}してあなたを愛^{あい}することをやめないのです。

「暗^{くら}やみの中^{なか}から光^{ひかり}を照^てらせ」と言^いった神^{かみ}さ
まは、イエス・キリストの顔^{かお}にかがやく神^{かみ}の
栄光^{えいこう}の知^ち識^{しき}を^{あき}明らかにするために、私たちの
心^{こころ}を^て照^てらしてくれたのである。～コリント人^{じん}
への手紙^{てがみ}の第^{だいに}二^に4:6

イエスさまを見ると、^{わたし}私^{かみ}たちは神^{えいこう}さまの栄光^{ちしき}の知^ち識^{しき}
を^う受^とけ取ることが出来ます。それは、イエスさまが
本当^{ほんとう}に天^{てん}の父^{ちち}の神^{かみ}さまのような人^{ひと}だからです。でも、
神^{かみ}さまの栄光^{えいこう}って何^{なん}でしょうか？その答^{こた}えを知^しるため
に、神^{かみ}さまがモーセに言^いったことを読^よんでみましょう。

するとモーセは言^いった。「どうか、あなたの
栄光^{えいこう}を私^{わたし}に見^みせてください！」神^{かみ}さまは言^いっ

た。「^{わたし}私のすべての^よ良^さ（やさしさ）を あな
たの^{まえ}前に^{とお}通らせよう。そして、^{しゅ}主の^な名をあなた
の^{まえ}前で^{せんげん}宣言しよう。私^{わたし}は、^{めぐ}恵みを^{あた}与えようと
する^{もの}者には^{めぐ}恵^み（愛）を^{あい}与え、^{あは}親切^{しんせつ}を示す^{しめ}者に
は^{しんせつ}親切^{しめ}を示す。」～ 出^{しゅつ}エジプト^き記 33 : 18-19。

^{かみ}神さまの^{えいこう}栄光は、^{かみ}神さまの^{こころ}心

です！イエスさまを通して、

^{わたし}私たちが^{かみ}神さまのことを^{まちが}間違っ

て^{かんが}考^{こころ}えて^{くら}心^{かみ}が暗くなっていた

ところに、神さまのやさしくて

^{あい}愛にあふれた^{こころ}心^{あか}が^て明るく照ら

し出したのです。もう、^{つみ}罪^{くら}の暗

やみにだまされないようにしましょう。毎日、^{まいにち}毎^{せいしよ}日、聖書を

^よ読^{かみ}んで、神さまの^{ほんとう}本当の^{こころ}心^{ひかり}という^{わたし}光^{こころ}を私たちの心

に^て照らしてもらいましょう。

これまで^{まな}学^{かんが}んできたことを考^{ちきゅう}えると、地^{びようき}球が病気に

な^のってしま^あったことが、ノアが^{はこぶね}箱舟^{つく}を作った^{とき}時の^{こうずい}洪水



げんいん
の原因になった、ということはあるのでしょうか？で
は、もう一度、洪水の前に人々に何が起きていたのか
よく見てみましょう。

しゅ　ひと　あく　ちじょう　おお　ひと
主は、人の悪が地上でとても大きくなり、人の
こころ　かんが　おも　わる
心 のすべての 考 え（思い）が　いつも悪いこ
とばかりになってしまったのを見た。～創世記
6:5

わたし　こころ　おも
ここでも、私たちの心 と思いがつながっていること
わ　とき　ひと　こころ　おも　わる
が分かりますか？あの時の人たちの心 と思いは、悪
おも
い思いでいっぱいになっていました。いつもあばれた
り、にくんだりして、かみ　おし　あい
神さまが教えてくれた愛のある
い　かた　たいせつ　じぶん
生き方を大切にしようとしませんでした。自分のこと
かんが　たの
だけを 考 え、どうやったらもっと楽しくできるか
なということばかりき気にしていたのです。



これは地球自体に直接えいきょうを与えたのでしょ
うか？ 11節と 12節で見てもみましょう：

その時、地球は神さまの前でこわれてしまい、

暴力でいっぱいになっていた。神さまが地球

を見ると、本当にこわれてしまっていた。そ

れは、地上のすべての人々が神さまの教えた

道を行かないで、悪い生き方ばかりしていたか

らだった。～ 創世記 6:11-12

そうです！ 人々のあらっぽい行いが、地球をこわし

てしまったのです。地球は、人々の心や思いの中に

あった暴力を映すかがみのようになってしまったの

です。それを見て、神さまはとても悲しみました。

神さまは、人々も、地球も、動物たちもおたがい
暴力をふるったり、にくんだりすることをとても悲
しく思いました。神さまは暴力がきらいです。イザ
ヤ書には、イエスさまは「決して暴力をふるわな
った」（イザヤ 53:9）と書かれています。イエスさま
が暴力をふるわないなら、その父である神さまも
暴力をふるうはずがありません。実は、神さまは私
たちを「うそや暴力から救いたい」と願っています
（詩篇 72:14）。もし神さまが洪水を起こしたとし
たら、それは暴力をふるったことになってしまいます。
でも、私たちは神さまは暴力がきらいだと知ってい
ます。決して暴力的なことをすることはありません。
ある人たちは、神さまがきまりを守らない人に暴力
をふるったり傷つけてしまうことは、正しいはんだん
をするためと言います。神さまがイスラエルのいじ
わるな王たちに言われたことを見てみましょう。「も

うやめなさい、イスラエルの王たちよ。暴力やこわすことをやめて、正しいことを行いなさい。」（エゼキエル 45:9）ここからわかるように、本当の正しい行いは暴力を使ったり、こわしたりすることではありません。だから、神さまの正義は、決して神さま自身が暴力をふるったり、こわしたりすることではないのです。

神さまはノアに、もうすぐ洪水が来ることを人々に知らせるように言いました。では、ノアはどんなふうに人々に知らせたと思いますか？ 下の二つの答えのうち、正しいと思う法に丸をつけましょう。

1. ノアは言った。 「もうすぐ大きな洪水が来る。神さまは、みんなを洪水から守りたいんだ。だから、神さまの言うことを聞いて、悪いことからはなれよう。」	2. ノアは言った。 「もし神さまの教えをやぶってばかりいるなら、神さまが大きな洪水を送って、みんなが流されてしまうことになるよ。」
--	---



きっと、あなたは①に丸をつけたね。神さまは、人々を傷つけるのではなくて、助けたかったのです。神さまは、人々を神さま自身から守ろうとしたのではなくて、洪水から守ろうとしました。あの大きな洪水

ひとひと きず
が人々を傷つけてしまうところだったのです。ちょう
ど、あなたの友だちが とも まわ せんぷうき ゆび い
回っている扇風機に指を入れよ
うとして あぶ とき おな
危なかった時と同じですね。

ちきゅう あば ぼうりょく
地球そのものが暴れていたのだから、暴力をふるう
のは地球で、神さまではありません。神さまは、決し
て ぼうりょく
暴力をふるったりしません。

かみ ひと おし ちきゅう
神さまは、ある人たちにこう教えました。「地球その
ものが びょうき
病気になってしまった」ため、実際に「そこに
す ひと は だ き
住んでいた人たちを吐き出した。」（レビ記 18:25-
28）

ひと だいじ しつもん
でも、ここで一つ大事な質問をしなくてははいけません。

かみ しつもん
神さまに質問することをこわがらなくていいのです。

わたし き しつもん せいしょ かみ
私たちが聞きたい質問とは、どうして聖書には、神
さま自身が「地上の生きものをすべてなくしてしまう。

ひと どうぶつ とり ちゅうるい け さ
人も、動物も、鳥も、は虫類も、みんなを消し去っ
てしまう」と言った、と書かれているのだろうか？ と
いうことなのです。

この部分^{ぶぶん}だけを見ると、まるで神^{かみ}さまが人々^{ひとびと}をこわそうとしているように聞こえるかもしれません。では、ここで神^{かみ}さまの心^{こころ}をどう理解^{りかい}したらいいのでしょうか。それは、私^{わたし}たちが聖書^{せいしょ}全体^{ぜんたい}をどのように読む^よかで変わってきます。

ある日^ひ、イエスさまはあ
る人^{ひと}にこう聞き^きました。

「律法^{りっぽう}には何^{なん}と書^かいてあ
りますか？ あなたはそ
れをどう理解^{りかい}しています



か？」（ルカ 10:26）だから、私^{わたし}たちも、聖書^{せいしょ}が何^{なに}を
言っているのか、なぜそう言っているのかをしっかりと
理解^{りかい}することが大切^{たいせつ}なのです。もし理解^{りかい}しないまま読
むと、聖書^{せいしょ}が本当^{ほんとう}は言っていないことを言っていると思
ってしまうことがあるかもしれません。

パウロは、聖書^{せいしょ}を読む^よとき、目^めにおおいがかかったよ
うになって、書^かいてあることを正^{ただ}しく理解^{りかい}できない人^{ひと}
がいます。そのおおいのせいで、聖書^{せいしょ}が

い
言っていることを正しく理解できなくなってしまうの
です。



きょう
「今日にいたるまで、 せいしょ
をよ読むときに同じおおいがか
かっている。でも、だれかが
しゅ ころ む
主に心を向けると、そのお
おいは取りのぞかれる。」

～2 コリント 3:14, 16

せいしょ ほんとう ただ り かい
聖書を本当に正しく理解するためには、イエスさまに
たす
助けてもらわなければなりません。私たちは、イエ
スさまが理解しているように聖書を読む必要があるの
です。

じゃあ、イエスさまはかみ
神さまについてわたし
私たちに何
をおし
教えてくれたのでしょうか？



1. 神^{かみ}さまは、危険^{きけん}なことをした
とがありますか？ **いいえ！**
2. 神^{かみ}さまは、暴力^{ぼうりょく}をふるった
とがありますか？ **いいえ！**
3. 神^{かみ}さまは、自分^{じぶん}を愛^{あい}さない人^{ひと}を
傷^{きず}つけたいですか？ **いいえ！**
4. 神^{かみ}さまは、私たち^{すく}を救^{きう}い、いや
し、回復^{かいふく}させたいですか？

ヨブ^き記^きという本^{ほん}には、洪水^{こうずい}の時^{とき}に何^{なに}が起^{おこ}ったのかを
理解^{りかい}するためのヒント^かが書^かかれています。

あなたは、昔^{むかし}の悪^{わる}い人^{ひと}たちが生^いきていた道^{みち}を
そのまま続^{つづ}けるのか。その人^{ひと}たちは、まだ若^{わか}い
うち^{あば}に暴^{じめん}れた地面^{じめん}によつて命^{いのち}をうばわれ、

こうずい　なが　　かれ　　かみ
洪水の流れにのまれてしまった。彼らは神さま
む　　わたし　　はな
に向かって「私たちから離れてください。
ぜんとう　かみ　　わたし　　なに
全能の神が、私たちに何ができるというので
すか。」と言った。～ヨブ記 22:15-16

こうずい　とき　　い　　ひとびと　　かみ　　む
洪水の時に生きていた人々は、神さまに向かって「わ
たしたちから離れてください！」と言いました。もし
ほんとう　かみ　　はな　　おも
本当に神さまが離れてしまったらどうなると思います
か？リモコンカーから電池を取り出したらどうなるか
おも　だ　　くるま　　うご
を思い出してみましよう。車はもう動かなくなります
かみ　　でんち　　かみ
す。神さまは、その電池みたいなものなのです。神さ
まが離れてしまうと、私たちはうまく生きられなく
なりまう！ひとびと　かみ　とお　かみ
なります！人々が神さまを遠ざけてしまったので、神
さまは悲しそうにこう言いました。「わたしの霊
いのち　あた　　にんげん　とも
(命を与えるもの)は、いつまでも人間と共にいる
わけではない。」(創世記6:3)

でも、もし神さまがいなくなったら、うまく動かなくな
るのは人間だけじゃないのです。神さまがいなくな

ったら、木や草は元気をなくしてかれてしまいます。

太陽は光を出せなくなります。地球の水はあるべき
場所にいられなくなります。そして地球はとても暴れ
出して、人間をこわすのを止められるものは何もなく
なってしまうのです。

聖書は、神さまは「海に境界を決めて、海の水が神
さまの言葉にさからわないようにした」と教えていま
す。（箴言8:29）神さまの言葉があるから、海や川の
水は、ちゃんと決められた場所にあるのです。でも、
もし神さまがいなくなったら、神さまの言葉は水をお
さえられません。そうすると、水はあふれ出して、
地球をおおうほどの大きな洪水になってしまうでしょ
う。

これが、神さまが「わたしは洪水で
人々をこわしてしまおうだろう」と言っ
た時の本当の意味です。神さまはこう
言いました。「もし私がいなくなっ
たら、私の言葉はもう水をおさえて
おけない。そうしたら、水があふれて



しまっ、人々はみんな流されてしまふんだ。」神さ
まの霊（命を与えるもの）は、ノアを通して人々に
「どうか神さまを遠ざけないでください」と一生け
んめいに語りかけていました。でも、神さまが洪水の
ことを話せば話すほど、人々はますます怒ってしま
い、神さまに「もうやめてほしい」と思ふようになったのです。

ひとびと 人々は、^{こうずい}洪水が来るなんてばか^くがけていると思^{おも}い、ノア
を^{わら}笑いました。そして、^{こうずい}洪水が来るという^く話^{はなし}を^{しん}信じ
なかったので、^{かみ}神さまに「もう、^{わたし}私たちから^{はな}離れて
ください。ほっといてください！」と言^いったので
す。



でも、^{にんげん}人間の^{わたし}私たちがどうやって^{かみ}神さまを^{おん}遠ざける
ことができるのでしょうか。^{かみ}神さまは、^{わたし}私たちをと
ても^{あい}愛しているから、^{わたし}私たちが^{のぞ}望むものをくれます。
^{かみ}神さまは、^{わたし}私たちに^{あい}愛させようとしません。もし
^{ほんとう}本当に^{かみ}神さまに^ほいなくなって^{おも}欲しいと思^{ひとり}って、一人に
して^ほ欲しいと^{ねが}願ったら、そうしてくれます。でも、そ
れは^{かみ}神さまを^{かな}悲しませてしまいます。なぜなら、もし

かみ
神さまがいなくなってしまうたら、わたし
わかし い
私たちは生きて
いくことができなくなることを知っているからです。

かみ
神さまは、わたし
わかし い
私たちを生かしてくれている電池のよう
でんち
なものだからです。

さっき、かみ
神さまのことば
ことば せかい
世界のすべてをささ
ささ
支えていると
まな
学びました。そして、かみ
イエスさまは、わたし
わかし
神さまが私
あた
くに
くすり
与えた薬
はなし
みたいだという話
せいしょ
もしました。聖書に
は、イエスさまにはもうひとつの名前があると教えてい
ひと
なまえ
ます。その名前は「神の言葉」です（ヨハネの黙示録
おし
19:13）。ヨハネはこう言っています。「この言葉」

（イエスさま）は、「はじめからかみ
神さまといっしょに
あった。」そして、このことば
言葉（イエスさま）によって
つく
「すべてのものが作られた。」（ヨハネ 1:1-3）

すごい！ イエスさまは、ちち
ちち かみ
父の神さまからもらった力
ちから
で、すべてのものをつく
作ったのです。そして、ずっと今
いま
まで、イエスさまがせかい
世界をまとめてささ
支えてくれたので
す。パウロはこう言っています。イエスさまは、「そ
ちから
のちから
ことば
言葉によってすべてのものをささ
支えている。」

(へブル人への手紙^{じん てがみ}1:3)

ひとひと^{ひとひと}が神さまに「もう離れてください」と言ったのは、
すべてを支えているのは神さまの言葉だということを
信じなかったからです。神さまの言葉を受け入れない
ということは、その言葉であるイエスさまを受け入れ
ないのと同じことでした。ノアだけが、これを分かっ
ていました。神さまが罪の心を持つ人間を見たとき、
ノアの家族だけは神さまの恵みを見て、信じて、受け
入れました。でも、他の人たちはだれも神さまの恵
みを受け入れませんでした。(創世記^{そうせいき} 6:8) そして、
イエスさまをつかまえて十字架にかけた人たちと同じ
ように、洪水の時代に生きていた人々もイエスさまが
助けようとしているのに自分たちでそれを止めてしま
ったのです。

ひとひと^{ひとひと}は、イエスさまの頭^{あたま}にいばらの冠^{かんむり}をかぶせた
だけでなく、イエスさまの手と足を十字架にくぎで打
ちつけました。

どうして神^{かみ}さまは、人間^{にんげん}が
イエスさまの手^てを十字架^{じゅうじか}に
打ち^だつけることをゆるした
のでしょうか？聖書^{せいしょ}では
「手^て」という言葉^{ことば}は、私^{わたし}た



ちがどのように行動^{こうどう}するかを表^{あらわ}しています。(詩篇^{しへん}

92:4、箴言^{しんげん} 31:31、イザヤ 59:6)

イエスさまの手^てを十字架^{じゅうじか}に打ち^うつけたことは、私^{わたし}た
ち人間^{にんげん}が、イエスさまのやさしくて思い^{おも}やりのある
行い^{おこな}をきらう心^{こころ}を持^もっていたことを表^{あらわ}しています。
それは、イエスさまの私^{わたし}たちへの助け^{たす}を止^とめさせよ
うとする行い^{おこな}でした。

イエスさまはこう言^いいました。「あなた^{ひかり}たちの光^{ひかり}を
人々^{ひとびと}の前^{まえ}でかがやかせなさい。そうすれば、人々^{ひとびと}はあ
なた^よたちの良^よい行い^{おこな}を見て、天^みに^{てん}いるあなた^{てん}たちの
父^{ちち}をほめるようになる。」(マタイ 5:16)



どうして神さまは、人間
がイエスさまの足を
十字架に打ちつけること
をゆるしたのでしょう
か？

聖書では「足」という言葉は、私たちがどのように
生きるかを表しています。(詩篇 56:13、ハバクク
3:19)

イエスさまの足を十字架に打ちつけたことは、私
たち人間が、神さまである父に電池のように命を支え
てもらって生きるというイエスさまの生き方をきらっ
ていることを表しています。神さまは、神さまの恵
みを受け入れて、神さまの歩みに従ってほしいと願
っていました。でも、私たちは、それを無視しまし
た。イエスさまの友だちのペテロはこう書いています。

「神さまは、あなたがたが良いことをするために呼ん
だ。たとえ苦しみがあっても、キリストがあなたがた
のために苦しんでくれたように歩みなさい。キリスト

はあなたの手本であり、あなたはその歩みをたどらなければならぬ。キリストは罪を犯したことがなく、だれにもうそをつかなかった。ひどいことをされてもやり返さず、苦しんでも、仕返しすると言わなかった。」 (1 ペテロ 2:21-23)

イエスさまの手と足が十字架に打ちつけられたことを
おも かな き も わたし
思うと、とても悲しい気持ちになりませんか？ 私 も
おな き も わたし ねが かみ ころ
同じ気持ちです。私の願いは、神さまの心について
おお ご かい じゅう じか
どれだけ大きな誤解をしていて、イエスさまを十字架
におお まちが かみ おし
にかけたことが大きな間違いだったことを神さまに教
えてもらい、それに気づくことです。その間違いに気
づいて、本当は神さまが どれほどわたしたちを大切に
おも たいせつ
思っていて、どれほど愛してくれているか、そして、
かみ わたし あんぜん かみ かみ みち もど
神さまは私たちが安全に神と神の道に帰ることをど
れほど望んでいるかを知ると、私たちは変わりたい
とおも かみ りつほう わたし
と思うようになります。そして、神さまの律法が私
たちの心と考えの中にしっかり書きしるされるよう
になるのです。そのとき、私たちはイエスさまの姿

を映すかがみみたいになるでしょう。イエスさまのよう
に ^{かんが} 考 え、 ^{はたら} 働 き、 ^{あゆ} 歩 み、 ^{あい} 愛 するようになるのです。

^{わたし} 私 たちは、 ^{せ かい} 世界 のすべてを、あるべき ^{ばしょ} 場所 に ^お 置いて
くれているのはイエスさまだということを ^{わす} 忘れてはい
けません。でも、 ^{こうずい} 洪水 の ^{すこ} 少 し ^{まえ} 前 に ^い 生 きていた人たちは、
^{たいせつ} この大切なことを ^{わす} 忘れてしまいました。

^{ひとびと} 人々は、 ^{かみ} 神さまの ^{ことば} 言葉（イエスさま）が ^{てん} 天と
^ち 地を ^{みず} 水の中から ^{なかに} ^{かたち} 形づくられたということを、
^{みず} 自から ^{わす} 忘れてしまった。そして、その ^{みず} 水によっ
て ^{ちきゅう} 地球が ^{こうずい} 洪水でこわされてしまったことも ^{わす} 忘れ
てしまった。そして ^{いま} 今も ^か 変 わらず ^{かみ} 神さまの ^{ことば} 言葉
（イエスさま）が ^{てん} 天と ^ち 地をしっかりと ^{ささ} 支 えてい
る。～2 ペテロ 3:5-7

ある日、イエス
さまと弟子たち
は船に乗って
いました。すると、ものすごい
嵐がやってき



て、弟子たちは「船が沈んでしまう」と、とても心配
していました。イエスさまを探すと、なんとイエスさ
まは眠っていたのです。弟子たちはイエスさまを起こ
して、「助けてください」とお願いしました。「する
とイエスさまは立ち上がり、風に向かって「止みな
さい。」命じた。そして海に向かって「静まりなさい。」
言った。すると風はピタッと止み、海はとても静か
になった。（マルコ 4:39）

もしあの時の人々が、神さまの言葉（イエスさま）を
信じていたなら、地面も海も静かになって、洪水は起
こらなかったでしょう。

神さまを遠ざけてしまったことが、洪水が起こる原因

でした。洪水^{こうずい}そのものが人々^{ひとびと}をこわしてしまっただけです。イエスさまは、ある人々^{ひとびと}に洪水^{こうずい}の話^{はなし}をしたとき、
「洪水^{こうずい}が来^きて、みんなを滅^{ほろ}ぼした」と言^いいました。

(ルカ 17:27) イエスさまは、神さま^{かみ}が人々^{ひとびと}をこわしたとはひと^{こと}と言^いっていません。イエスさまが言^いったのは、「洪水^{こうずい}が」人々^{ひとびと}をこわしたということだけでした。そして覚^{おぼ}えておきましょう。イエスさまは「神^{かみ}のことば^{ことば}」そのものであつて、こう言^いっています。「私^{わたし}は自分^{じぶん}からは何^{なに}もしない。父^{ちち}が教^{おし}えてくれたことだけを^{はな}話^{はな}す。」 (ヨハネ 8:28)

神さま^{かみ}が人々^{ひとびと}に言^いった、こわすの意味^{い み}は、人々^{ひとびと}が神さま^{かみ}を押^おしのけてしまっただけで、神さま^{かみ}は洪水^{こうずい}が人々^{ひとびと}をこわすことをゆるすとか、認^{みと}めるという意味^{い み}でした。人々^{ひとびと}は神さま^{かみ}の助け^{たす}を必要^{ひつよう}としませんでした。神さま^{かみ}は、人々^{ひとびと}を愛^{あい}していたため、とても悲^{かな}しい気持^きちでそのま^{えら}ま選^{えら}ばせることにしたのです。

エジプト^{わざわ}の災^{かみ}いと神さま^{こころ}の心

次^{つぎ}に、神さま^{かみ}がいじわるをしたように見^みえるお話^{はなし}を

見ていきましょう。神さまは、イスラエルという人たちといっしょにすばらしいことをしようとしていました。でもイスラエルの人たちは、エジプトという国の人たちに奴隷にされてしまったのです。

エジプトの人たちは、イスラエルの人たちにとてもつらい仕事をさせていました。神さまは、イスラエルの人たちもエ



ジプトの人たちも どちらも大切に思っていました。だから、エジプトの人たちがイスラエルの人たちにいじわるするのを止めて欲しかったのです。続けていると、洪水の前の人々と同じように、その悪い行いが国に災いを起こすことになります。それを止めるために、神さまは モーセという人をエジプトのリーダーのところに送りました。



エジプトのリーダーをファラ
オと呼びます。モーセはファ
ラオに、「イスラエルの人た
ちを自由にしてあげてくださ
い」と伝えました。もし、イ

スラエルの人たちを自由にさせないなら、神さまは、
エジプトの国に 10 の災いを送るだろうとモーセは言
いました。

えき病 というのは、本当にひどいもので、病気が広
がったり、ハエがたくさん出てきたり、体に痛い
きものができたり、昼なのにまっ暗になったりするよ
うなことです。でも、神さまは本当に エジプトの人た
ちに 10 こも悪いことをしようとしていたのでしょうか？
神さまが悪いことをするのでしょうか？

災いが起こるたびに、ファラオはモーセにこの災い
が止まるように神さまにお祈りしてと頼みました。そ
のたびに神さまは、その災いを止めて、エジプトの
人たちに親切にしました。でも、神さまが親切にする

たびに、ファラオはいじわるになり、とても怒りっぽ
くなりました。イスラエルの人^{ひと}たちを自由^{じゆう}にしたくな
かったのです。ファラオは、がんこになっていました。
とうとう、10 ^め ^{わざわ} ^お ^{かみ} 回目の災^{わざわ}いが起こりました。神さまは
ファラオに、エジプトの家族^{かぞく}の長^{ちやうなん}男^{なん}にととても大^{たい}変^{へん}な
ことが起^おこると教^{おし}えました。長^{ちやうなん}男^{なん}とは、家^{かぞく}族^なの中^{なか}で
一^{いち}番^{ばん}年^{しうえ}上^{にい}のお兄^{にい}さんのこと^{こと}です。神さまはこう言^{かみ}いま
した。

「その夜、私^{わたし}はエジプト^{えじぶと}の国^{くに}を通^{とお}り、すべて
の家の長^{ちやうなん}男^{なん}を打^うつ…」～出^{しゅつ}エジプト^き記
12:12

えっ！神さまは本^{ほん}当^{とう}に、た^おく^こさ^{きず}ん^きの男^{なん}の子^こたち^{たち}を傷^{きず}
つけようとしているのでしょうか？こ^{かみ}こ^{かみ}での神^{かみ}さまの
言^{こと}ば^ばをど^りう^{かい}理^り解^{かい}すれ^{かみ}ばい^{かみ}い^{かみ}の^{かみ}で^{かみ}し^{かみ}ょう^{かみ}か？この神^{かみ}さま
の言^{こと}ば^ばは^{こう}ずい^いの^はな^しし^おな^りに^{かい}理^り解^{かい}す^{かみ}る^{かみ}こ^{かみ}が
大^{たい}切^{せつ}な^おの^だで^{かみ}す。思^{おも}い^だ出^だし^{かみ}て^{こう}み^{ずい}ま^{ずい}し^{ずい}ょう。神^{かみ}さまは^{こう}ずい^いの^い時^いき、
「人^{ひと}々^とを^{こう}ずい^いの^い時^いき、
「人^{ひと}々^とを^{こう}ずい^いの^い時^いき、
本^{ほん}当^{とう}は、人^{ひと}々^とが^{かみ}神^{かみ}さまに^{はな}「離^{はな}れて。ほ^ほっと^いて。」

い
と言ってしまったからなのです。

では、この 10 こ目の災^めいはどうでしょう。神^{かみ}さまは
ほんとう、男^{おとこ}の子^こたちを傷^{きず}つけようとしていたのでは
しょうか。それとも、洪水^{こうずい}のときと同じように、悪い^{わる}こ
とが起^きこるのをゆるすだけだったのでしょうか。そう
です。神^{かみ}さまは悪い^{わる}ことをするのではなく、悪い^{わる}こと
が起^きこるのをゆるすだけだったのです。

でも神^{かみ}さまは、まずエジプト人^{じん}たちを含む^{ふく}全^{すべ}ての人^{ひと}に
安全^{あんぜん}になれる方法^{ほうほう}を教^{おし}えました。その方法^{ほうほう}とは、家^{いえ}の
入りぐち^{いりぐち}に、子^こひつじの血^ちをぬることでした。ちょっと変^か
わった方法^{ほうほう}に聞こえますね。まあ、それについては後^{あと}
でゆっくりお話^{はな}しましょう。まずは、神^{かみ}さまが人^{ひと}々に
どんなこと^いを言^よったのか読^よんでみましょう。

わたし
「私がエジプトの
くにとお
国を通るとき、家
いりぐち うえ よこ
の入口の上と横に
ぬられた血を見
て、その家を通り



すぎる。そして、**ほろぼす者**があなたたちの家
はい
に入って、あなたを打つことをゆるさないよう
にする。」 ～出エジプト記 12:23)

ここで、とても大事なことに気づきましたか？ 私は、
きず しみ
傷つけたのは神さまではなく、ほろぼす者と呼ばれる
だれ き しみ
誰かだと気づきました。神さまは、家の入口に血を見
たとき、ほろぼす者が中に入ることをゆるさないと言
ったのです。

ひと
ある人たちは、ほろぼす者のことを「死の天使」と呼
びます。でも、この天使は、神さまの良い天使だと思
いますか？ 神さまの良い天使たちは、人を傷つけるこ
とはしません。

てんし わる あく てんし じつ せいしょ しへん
この天使は、悪い、悪の天使です。実は、聖書の詩篇

という本^{ほん}には、エジプトの人^{ひと}たちに起^おこった災^{わざわ}いを
引^ひき起^おこしていたのは悪^{わる}い天^{てん}使^したちだ^かったと書^かかれて
います。

...神^{かみ}さまはエジプトでし^しるし^しをした...水^{みづ}を血^ち
に變^かえた...ハエやカエルが^で出^{ひと}てきて人^{ひと}々^{びと}をこ
ま^いらせた...イナゴ^{なご}が作^{さく}物^{もつ}を食^たべつくした...ぶ
どうの木^きや他^{ほか}の木^き々^ぎがひ^ひょうで^でか^かれた...神^{かみ}さ
まは、悪^{わる}い天^{てん}使^したち^{たち}を^おく^く送^いって、怒^あり^らを^わ表^{あら}した。

～詩^し篇^{へん} 78:43-49

もう一^{いち}度^どおさ^さらいし^しま^ましょう。このた^たく^くさ^さん^んの災^{わざわ}い
は、悪^{わる}い天^{てん}使^したち^{たち}が引^ひき起^おこした^たもの^もだ^だった^たの^のです。
悪^{わる}い天^{てん}使^しは、良^よい天^{てん}使^しと^とは違^{ちが}い^いま^ます。良^よいと悪^{わる}いは、
ま^まっ^{はん}た^{たい}く^く反^{はん}対^{たい}の^のもの^もです。

あるお休^{ひと}みの^{びと}日^と、イエスさまは人^{ひと}々^{びと}に良^よい^いこと^こと悪^{わる}い
こと^この違^{ちが}い^いを^おし^しえ^えま^ました。イエスさまはこ^こう^い言^いいま^まし
た。「安^{あん}息^{そく}日^びに、良^よい^いこと^こを^をす^する^るべ^べき^きで^でし^しょう^うか。
それ^{それ}と^とも悪^{わる}い^いこと^こを^をす^する^るべ^べき^きで^でし^しょう^うか。人^{ひと}の^{いのち}命^{めい}を

^{たす}助けるべきでしょうか。それともうばうべきでしょうか。」（ルカ 6:9）

イエスさまがこの^{はなし}話をしたとき、^よ良いことをするというのは「人の^{ひと}命^{いのち}を^{たす}助けること」。そして、^{わる}悪いことをするというのは、人の^{ひと}命^{いのち}を「うばう」ことだと教えました。神さまは、^{ぜったい}絶対に悪いことをしないから、^{わたし}私たちは、神さまが人をこわすようなことを^{ぜったい}絶対にしないと^{しん}信じていいのです。人をこわすのは、神さまの^よ良い^{てんし}天使ではありません。それは、^{わる}悪い^{てんし}天使たちで、^{かれ}彼らは^{もの}ほろぼす^な者の仲間なのです。では、このほろぼす^{もの}者とは^{だれ}いったい誰のことなのでしょうか。

^き気をつけて！ あなたの^{てき}敵、^{あくま}悪魔は、ほえるライオンのように、^{ある}だれかをほろぼそうとしてうろうろ歩きまわっている。～1ペテロ 5:8



あくま かみ よ
悪魔は、もともと神さまの良
てんし
い天使でした。でも、だんだん
じぶん こう
自分のことばかり考えるように
なってしまったのです「悪魔」
なまえ
という名前には、うそつきとい
い み あくま かみ
う意味があります。悪魔は、神
かみ こ
さまや神の子イエスさまのうそ

い だいす
を言うことが大好きです。あくま かみ
悪魔は、神さまやイエスさ
まをわがままだとうそをつきます。あくま ひと
悪魔はいつも、人
きず
を傷つけようとしています。エジプトでひとびと きず
人々を傷つけ
もの あくま
たほろぼす者は、この悪魔だったのです！

でも、さっき読んだ詩篇で、神さまがエジプト人に
いか あらわ
「怒りを表した」とは どういう意味だったのでしょ
かみ
うか？神さまは、どうやって怒りを表すと思います
か？ わたし おな おこ おも
私たちと同じように怒ると思いますか？違います
わたし たす おこ
す。私たちは、イエスさまの助けがないと、怒った
とき い かた ひと きず
に ひどい言い方をしたり、人を傷つけたりしてし
まいます。イエスさまのきょうだい
兄弟のヤコブは いか
怒りについ

てこう書きました。「^{にんげん}人間の怒りは、^{いか}神さまのやさしくて^{あい}愛にあふれた^{こころ}心を^{あらわ}表すことはできません。」
(ヤコブ 1:20)

^{わたし}私たちの^{つみぶか}罪深い^{いか}怒りは、^{ひと}人を^{きず}傷つけたり、^{じぶん}自分^{じしん}自身を^{きず}傷つけたりしてしまいます。でも^{かみ}神さまの^{いか}怒りは、それとは違います。^{ちが}神さまの^{いか}怒りは、^{かみ}神さまが^{はな}離れなければならない^{もの}なって、^{あくま}ほろぼす者(悪魔)^{ひと}が^{きず}人を傷つけることをゆるしたり、^{にんげん}人間が



これは神の怒り方
じゃないよ！

^{じぶん}自分で^{じぶん}自分を^{きず}傷つけてしまうことをゆるしたりすることで、とても^{かな}悲しい^き気持ちになることです。^{かみ}神さまの^{いか}怒りと^{にんげん}人間の^{いか}怒りの^{ちが}違いが^わ分かりますか？

では、^{かみ}神さまがどのように^{いか}怒りを^{あらわ}表すか、いくつかの例を見てみましょう。^{かみ}神さまが^{れい}モーセに^みエジプトへ行って、^{ひとびと}人々に^{はな}話すように^い言った^もときの^{こと}です。モーセは言いました。「^{わたし}私は^{はな}話すのが^{とくい}得意ではありま

せん。」（^{しゅつ}出^きエジプト記4:10）すると、神^{かみ}さまは答^{こた}えました。「あなたが^{はな}話^{わたし}すとき、私^{わたし}があなたといっしょにいて、^い言^{ことば}うべき^{おし}言葉^{おし}を教^{おし}えてあげます。」
（^{しゅつ}出^きエジプト記4:11）でもモーセは、まだ神^{かみ}さまを
じゅうぶん 十分に^{しん}信じられず、もう一度^{いちど}お願い^{ねが}しました。「主^{しゅ}
よ、どうか^{ほか}他^{ひと}の人^{おく}を送^{おく}ってください。」（^{しゅつ}出^きエジ
ト記4:13）このあとに書^かかれていることに注^{ちゅう}目^{もく}しま
しょう。

^{しゅ}主^{しゅ}は、モーセに^{おこ}怒^いって^い言^いいました。あなたの兄^{あに}
のアロンはどうだ... 彼^{かれ}は話^{はな}すことが得意^{とくい}なの
を私^{わたし}は知^しっている... アロンが、あなたの代^かわ
りに人^{ひと}々に^{ひと}話^{はな}すだろう... あなたたちが話^{はな}すと
き、私^{わたし}はいっしょにいて、何^{なに}をすればよいか
教^{おし}える。」～^{しゅつ}出^きエジプト記 4:14-16

^{かみ}神^{かみ}さまがどんなふう^{おこ}に怒^みったか見^みたことがありますか。
^{かみ}神^{かみ}さまは、どなったり、物^{もの}を投^なげたり、けったりする
ような怒^{おこ}り方^{かた}はしませんでした。モーセを傷^{きず}つけない
とは全^{ぜん}然^{ぜん}思^{おも}いませんでした。神^{かみ}さまがしたことは、モ

一セが「他の人^{たひと}を送^{おく}てください」という願^{ねが}いをかなえてあげたことでした。

聖書^{せいしよ}には、ダビデ王^{おう}のお話^{はなし}が^で出てきます。あるときダビデ王^{おう}は、「自分^{じぶん}の国^{くに}にはどれくらい^{へいし}の兵士^{へいし}がいるのだらう。たくさんい^{おお}れば、大きな戦^{たたか}いにも勝^かてるかもしれない」と思^{おも}って、人々^{ひとびと}の数^{かず}を数^{かず}えようとしま^ほした。でも神さま^{かみ}は、ダビデにそれをして欲^ほしくありませんでした。神さま^{かみ}は、ダビデが兵士^{へいし}の数^{かず}ではなく、神さま^{かみ}を信^{しん}じて欲^ほしかったのです。神さま^{かみ}は、自分^{じぶん}のひとびと^{ひとびと}とほか^{ほか}ひと^{ひと}と戦^{たたか}って欲^ほしくありません。この場面^{ばめん}で聖書^{せいしよ}が何^{なに}と言^いっているのかつづ^{つづ}けて読^よんでみましょう。

主^{しゅ}は再^{ふたた}びイスラエルの人々^{ひとびと}に怒^{おこ}り、主^{しゅ}は、ダビデ^{だびで}がイスラエルとユダ^{ひとびと}の人々^{かぞ}を数^よえるのは良^よいことだと思^{おも}わせた。～ サムエル記下^{さむえる} 24:1

これは、神さま^{かみ}が怒^{おこ}って、ダビデ^{だびで}に人々^{ひとびと}を数^{かぞ}えさせたと^い言^まっています。でも、ちよつと待^{かみ}って。神さま^{かみ}は、ダビデ^{だびで}に^ほして欲^ほしくな^かったのです。ではなぜ、神さま^{かみ}

まが^{かぞ}数えさせたと書^かかれているのでしょうか？神さまは、怒^{おこ}ったとき人^{ひと}にむりやり何^{なに}かをさせることを本当^{ほんとう}にするのでしょうか？これをもっとよく理^り解^{かい}するために、聖書^{せいしょ}の別^{べつ}の部分^{ぶぶん}を見てみましょう。そこでは、少^{すこ}し違^{ちが}う言^いい方^{かた}で書^かかれていて、もっと分^わかりやすくなっています。

サタンは、ダビデにイスラエルとユダの人たち
を数えるのは良いことだと思^{おも}い込^こませて、イス
ラエルの人たちに問題^{もんだい}を起^おこすことにした。

～歴^{れき}代^{だい}誌^し 第一^{だいいち} 21:1

何^{なん}が起^おこっているか分^わかりましたか。ここでは、ダビデに人々^{ひとびと}を数^{かぞ}えようと思^{おも}わせたのは神さまではなく、サタンだ^かったと書^かかれています。「サタン」という名^な前^{まえ}には「敵^{てき}」という意^い味^みがあります。サタンは、悪^{あく}魔^まのう^{ひと}一つの名^な前^{まえ}です。サタンは、うそをつく敵^{てき}なのです。イエスさまは、この悪^{あく}魔^ま（サタン）についてこう言^いいました。「彼^{かれ}は初^{はじ}めから人^{ひと}殺^{ころ}しで、真^{しん}理^りの中^{なか}に立^たつ者^{もの}ではない。彼^{かれ}がうそをつくとき、それは彼^{かれ}

ほんね
の本音からくる。かれ
彼はうそつきで、すべてのうそその作
ぬし
り主だからだ。」（ヨハネ 8:44）

サタンがダビデに神さまを信じないようにさせていた
のです。だから、ダビデは、サタンのやり方を選んだ
のです。そのとき神さまは、とても悲しみながら離れ
て、サタンがダビデを間違った道へさそい続けること
をゆるしたのです。これが、人が危険な道を選んでし
まったときの、神さまの怒りの表し方なのです。でも
も、神さまとイエスさまを信じる方がずっといいと思
いませんか？彼らはいつもあなたを守ってくれますよ。

わたし
「私は、あなたたちのために立てて
いる計画をよく知っている」と主は
いう。「それは平和の計画で、災い
を与えるものではない。あなたたち
に希望と未来を与えるための計画であ
る。」～エレミヤ 29:11



どくへび かみ こころ 毒へびと神さまの心

サタンがエジプトの人たちを攻撃した ほろぼす者だったことをもっとよく知るために、聖書に出てくる毒へびのお話を読んでみましょう。

このお話は、イスラエルの人たちがちょうどエジプトを出て、とても広い荒野を歩いているときのお話です。人々は、モーセや神さまに文句を言いはじめました。「なぜ私たちをこんなところに連れてきたのですか。食べ物も水もありません。ここに連れてきたのは私たちを死なせるためですか。」（出エジプト記17:3）

イスラエルの人たちは、神さまは、悪いことをしたら罰として人を傷つけると思っていました。神さまがエジプトの人たちが信じていたにせの神々と同じように行動すると信じていました。でも、神さまはそんなふうには決して行動しません。神さまは、人を傷つけた

おも
いと思ったことは一度いちどもありません。神さまは、いつ
でも私わたしたちを守りたいと思っおもています。でも、やっ
ぱり、聖書せいしょの中なかには理解りかいしにくいことも書かかれていま
す。



すると主しゅは、毒どくヘビ

を人々ひとびとのところに送おく

った。ヘビへびは人々ひとびとに

かみつき、多くおほの人ひと

が死しんだ。～民数記 21:6

ほんとう
本当に、神さまがとても怒おこって、たくさんの毒どくヘビを
あつ
集めて人々ひとびとを攻撃こうげきしたと思っおもいますか？ 私わたしも、そうは
おも
思いません。では、ここでいっなにたい何おが起きていたの
でしょうか？

せいしょ
聖書せいしょの別べつの部分ぶぶんでは、毒どくヘビたちはもともとそこに住
んでいて、神さまがずっと人々ひとびとを守まもっていたと書かかれ
ています。

あなたたちは、かつてエジプトで奴隷どれいだったこ

と、そして、あなたたちを自由^{じゆう}にしてくれたの
は主^{しゅ}だということを 忘^{わす}れてはいけない。毒^{どく}へ
びやサソリが住^すむ あの大^{おお}きくてこわい荒野^{こうや}で、
主^{しゅ}は、どうやってあなたたちを導^{みちび}いてくれた
か^{おも}を思^だい出して、、、。～申命記 8:14-15

ひとびと もんく い つづ けっか かみ とお
人々は文句を言い続けました。その結果、神さまを遠
ざけてしまったのです。私^{わたし}たちが、ほっといてくだ
さいと 神^{かみ}さまを遠^{とお}ざけてしまうと、どうなるか覚^{おぼ}えて
いますか？そう、悪^{わる}いことしか起^おこらないのです。神^{かみ}
さまのきまりは、大^{おお}きなかべのように 人^{ひとびと}々を危^き険^{けん}か
ら守^{まも}っていました。でも人^{ひとびと}々はそのかべをこわしてし
まいました。かべがこわれると、毒^{どく}へびから守^{まも}られな
くなることに気^きづいていませんでした。

ひと あな じぶん
人をわなにかけようとして穴をほると、自分^{じぶん}が
その穴^{あな}に落^おちる。守^{まも}りのかべ（神^{かみ}さまの法^{ほう}）を
こわすと、へびにかまれるだろう。～伝道^{でんどう}者の
書^{しょ} 10:8

だからもう一度^{いちどい}言うと、聖書^{せいしょ}の中で神さま^{なにかみ}が悪いこと^{わる}を「した」とか「送った^{おく}」と書かれて^かいるときは、
本当^{ほんとう}は神さま^{かみ}がそれをゆるしたと理解^{りかい}しなければい
けません。パウロも、この話^{はなし}について書^かいています。
何^{なん}と書^かいたか注意^{ちゅうい}して見^みてみましょう。

そして、キリストをためそうとしてはいけな
い。あのときの人^{ひと}たちが、そうして毒^{どく}ヘビにか
まれたように。また、文句^{もんく}ばかり言^いってはいけ
ない。あの人^{ひと}たちのように文句^{もんく}を言^いい続^{つづ}ける
と、ほろぼす^{てんし}天使^{ころ}に殺^{ころ}される。～1 コリント
10:9-10

またここにも、ほろぼす^{てんし}天使^でが出てきます。この天使^{てんし}
は、いつも人々^{ひとびと}にたくさん^{もんだい}の問題^おを起^{おこ}そうとします。
聖書^{せいしょ}の別^{べつ}のところには、このほろぼす^{てんし}天使^{どく}は、毒^{どく}ヘビ
のように人^{ひと}を傷^{きず}つけようとする悪魔^{あくま}のことだと書^かかれ
ています。そして私^{わたし}たちが学^{まな}んできたようにサタン
とも呼^よばれています。

... そう、あの古^{ふる}いヘビと、その仲間^{なかま}の天使^{てんし}た

ちは^{てん}天から^お追^だい出されたのだ！^{ちじょう}地上の^{ひとびと}人々を
だますあの^{どく}毒^{へび}ヘビは、^{あくま}悪魔や^よサタンと呼ばれ
ている。～^{もくしろく}黙示録 12:9

^{かみ}神さまは、サタンが^{ひと}エジプトの人たちを^{はかい}破壊したり^{くる}苦しめたり、また、^{ひとびと}ダビデに^{かぞ}人々を数えさせたときも、
^{かみ}神さまはゆるしました。^{おな}同じようにサタンが^{どく}毒ヘビで
^{ひとびと}人々を^{ほろ}滅ぼすこともゆるしました。でも、^{かみ}どうして神
さまはそんなことをするのでしょうか？それは、^{わたし}私
たちが^{じぶん}自分勝手な^い生き方^{かた}を^{えら}選ぶと^{おし}どうなるのかを教え
るためです。そして、もうこのままではいけない、^か変
わりたいと^{わたし}私たちが^き気づいたとき、^{かみ}神さまの^{たす}助けを
^{もと}求める^{こころ}心の^{じゅんぴ}準備ができるのです。



ひとびと かみ じぶん まも
人々は、神さまがずっと自分たちを守っ
ていたことに やっと気づき、神さまに助
けを求めてお祈りしました。すると神さ
まはモーセに言いました。「銅でへびを
作り、高い棒の上になささい。」
そして神さまは人々に言いました。「そ
の銅のへびを見た人は、いやされるよう
になる。」ほんとう

どう へ び み ひと
銅のへびを見た人は、みんないやされたのです。

イエスさまが地上にいたとき、ニコデモという 男 の
人に出会いました。ニコデモは、イエスさまにたくさ
んの質問をしました。するとイエスさまは、彼にこう
言いました。

「... モーセが荒野でへびを高く上げたように、
私 も高く上げられなければならない。そうす
れば、私 を信じる人はみんな、永遠のいのち
を持つことができる。」 ～ヨハネ 3:14-15

イエスさまは、十字架^{じゅうじか}にかけられるときのことを話^{はな}していたのです。モーセがかけた銅^{どう}のへびは、イエスさまが十字架^{じゅうじか}にかけられることだと教^{おし}えていました。

覚^{おぼ}えておきましょう。へびはいつもサタンを表^{あらわ}しています。イエスさまが十字架^{じゅうじか}にかけられたとき、イエスさまはサタンに勝^かち、サタンのうそをすべて終^おわらせました。イエスさまは、子^こひつじのようにやさしい人^{ひと}です。でもサタンは、こわそうとしたり、神^{かみ}さまのことをうそついたりする、いじわるなへびです。イザヤは、イエスさまについてもっとくわしく言^いっています。

イエスさまはひどく^{くる}苦しめ
られたが、文^{もん}句^くを言^いわな
かった。ほふり^{じょう}場^つへ連れて
行^いかれる子^こひつじのように



しずか^けで、毛^かを刈^かられるひつじのようにおだや
か^けだった。～イザヤ 53:7

イスラエルの人たちが、どうして子^こひつじの血^ちを家^{いえ}の
入口^{いりぐち}にぬったのか、少し^{すこ}ずつ^わ分^わかってきましたか？子^こ
ひつじは、神^{かみ}さまの国^{くに}を表^{あらわ}しています。神^{かみ}さまの国^{くに}
は、やさしさ、愛^{あい}、思いやり^{おも}を大切^{たいせつ}にします。神^{かみ}さま
の国^{くに}にいる人^{ひと}たちは、たとえ自分^{じぶん}に親切^{しんせつ}にしてくれな
い人^{ひと}にも、いつも親切^{しんせつ}にするのです。

毒^{どく}へびは、いつもいじわるで、自分^{じぶん}勝手^{かって}なサタン^くの国^{くに}
を表^{あらわ}しています。サタン^{くに}の国^{くに}の人^{ひと}たちは、やさしさ
や愛^{あい}よりも、自分^{じぶん}のしたいことを押しつけようとしま
す。でもイエスさまの死^しは、本当^{ほんとう}の敵^{てき}がだれなのかを
教^{おし}えてくれました。サタンはずっと、神^{かみ}さまがこわし
ていると人々^{ひとびと}にうそをついてきました。でもイエスさ
まの死^しは、神^{かみ}さまとイエスさまが、人^{ひと}をどれだけ愛^{あい}し
ているか、そして、人^{ひと}をこわすより、自分^{じぶん}がこわされ
ることを選ぶほど私^{わたし}たちを愛^{あい}していることを表^{あらわ}して
います。

この本^{ほん}が、神^{かみ}さまのやさしい性格^{せいかく}をもっとよく理解^{りかい}す
る助け^{たす}になったことを願^{ねが}っています。そして、あなた

がこれから^{せいしよ}聖書^{ほか}の他^{はなし}のお話^{はなし}、ソドムとゴモラのお話^{はなし}、
エリコの^{たたか}戦い^{くる}、すべての^し苦しみ^おと死^ひが終わる火の
湖^{みずうみ}のお話^{はなし}など^よを読むときにも、この本^{ほん}で学んだこ
とを^{おも}思い出^{かみ}して神さまの本^{ほん}当^{とう}の姿^{すがた}を^み見つけられます
ように。

^{わす}忘れないでください。神さまが^{かみ}私^{わたし}たちをゆるしたの
は、イエスさまが死^しんだからではありません。イエス
さまが^{じゅうじか}十字架^しで死^{かみ}んだことで、神さまが^{まえ}ずっと前^{まえ}から
^{わたし}私^{わたし}たちをゆるしていたことが^わはっきり分^わかったので
す。^{わたし}私^{わたし}たちに必要^{ひつよう}だったのは、ただその愛^{あい}を^{しん}信^{しん}じて、
^う受^うけ入^いれること^いだけでした。

サタンは、天^{てん}の父^{ちち}はこわいと思^{おも}わせようとして、私^{わたし}
たちをだましてきました。神さまは、良^よい子^こにしない
と愛^{あい}してくれないと、うそを^{おし}教^{おし}えてきたのです。でも、
それはまったくの^{まちが}間違い^{まちが}です。ヨハネはこ^かう書^かいてい
ます。「^{わたし}私^{わたし}たちが^{かみ}神^{かみ}さまを^{あい}愛^{あい}するのは、^{かみ}神^{かみ}さまが^{さき}先^{さき}
に^{わたし}私^{わたし}たちを^{あい}愛^{あい}してくれたからだ。」 (1 ヨハネ 4:19)

^{かみ}神^{かみ}さまは、^{わたし}私^{わたし}たちが良^よい子^こだから愛^{あい}しているのでは

ありません。イエスさまは言いました。「^よ^{もの}^{かみ}良い者は神
^{ひとり}さま一人だけです。」（ルカ 18:19）^{わたし}私^{ほんとう}たちを本当に
^よ^{ひと}良い人^{かみ}にして^{れい}くれるのは、神さまの^{こころ}霊が^{なか}心の中に^す住
^{わたし}んで^{かみ}いるときです。もし私たちが神さまに^{さか}逆らわな
^{かみ}ければ、神さまは、^{わたし}私^{つみ}たちを^{じぶん}罪（自分勝手）から^{すく}救
^だい出^{かみ}してくれ^{わたし}ます。それは、神さまが私^{あい}たちを愛し
^{かみ}ているからです。神さまは、^{わたし}私^{かみ}たちが神さまの^こ子ど
^うもだからこそ、^い受け入れてくれるのです。

ことば 言葉さがしパズル

^{かみ}神さまの^{せいかく}性格を^{あらわ}表^{ことば}す^み言葉を見つけて^{まる}丸で^{かこ}囲みましょう。

A	I	E	F	D	V	D	O	E	D	N	E	L	R
V	E	R	O	N	L	N	R	N	R	L	E	N	O
I	L	O	V	I	N	G	P	L	N	H	V	S	E
E	N	L	E	E	E	E	U	Y	I	S	S	N	A
P	H	N	D	R	E	I	L	D	S	I	S	H	S
R	H	O	O	N	G	O	I	S	S	F	G	I	Y
S	O	P	R	E	H	O	O	S	G	L	N	O	R
G	E	E	H	E	A	L	E	R	E	E	N	O	E
G	E	N	T	L	E	E	O	I	N	S	P	D	D
E	E	R	S	E	H	D	U	S	I	N	R	N	I
E	T	R	E	R	O	T	S	E	R	U	D	I	V
L	L	T	E	N	D	E	R	O	L	L	G	K	O
O	S	U	N	O	N	V	I	O	L	E	N	T	R
L	E	N	E	S	E	R	V	E	R	T	O	S	P

UNSELFISH	自分勝手じゃない
SERVER	支える人
NONVIOLEN	人をこわさない
HEALER	いやす人
LOVING	愛にあふれる
GENTLE	やさしい
RESTORER	回復させる人
TENDER	思いやり深い
GOOD	良い
KIND	親切な
HOLY	聖なる
PROVIDER	与える人

本書の内容をさらに深く学びたい方は、ぜひ関連書である *Father of Love* をお読みください。

神さまの本当の心は？



聖書で、神さまの悲しさや怒りについて話すとき、それは、どんな意味なの？

神さまは、人々が言うことを聞かなかったから、暴力を使って大きな洪水を起こし、何百万人もの人を死なせたの？

壕③^{モト}Ⅷ畝No.IX 鰻^上餌倦祇Ⅷ黒⑬⑮ V ⑤^十
⑤(株)⑤⑬No.鰻^針①^下⑤⑬No.⑦KK.⑬mm V 鰻^針③^Ⅷ
旗^十(株)質⑰⑬Ⅷ鰻

神さまは、自分の民に腹を立てたから、毒ヘビを送って殺したの？

これは本当に神さまの正義なのでしょうか。

これらの質問は、キリスト教の子どもたちが成長するにつれて、いつか答えなければならないものです。

そのとき、ちゃんと答えられるでしょうか。

さあ、いまから準備してあげましょう！

